

2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
国語	現代の国語	2	現国701	東京書籍	新編現代の国語

<p>目標 【学習指導要領】</p>	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
<p>目標に向けての具体的取り組み 【指導上の留意点】</p>	<p>・話すことと聞くこと、書くこと、読むこと、読むこと、読むことを偏りなく養う。読むことと聞くこと及び書くこと、読むことについてはレポート及び視聴報告書を通して養えるが、話すことについては機会が少ないため、スクーリングでは発表や発言の場を設ける。</p>
<p>評価の観点</p>	<p>【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>【思考・判断・表現】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	1 自己を見つめる こそめスープ ルリボシカミキリの青 気になるニュースについて話そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者自身の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。</li> <li>・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。</li> <li>・情報を整理し、内容や構成に注意する。</li> </ul>	第1回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	2 他者に出会う 未来をつくる想像力 メディアとの付き合い方 水の東西 評論の読み方 文章の要旨をまとめてみよう 集めた情報の内容を検討して意見文を書こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。</li> <li>・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。</li> <li>・情報を集めて検討し、構成を工夫して意見文を書く。</li> </ul>	第2回				レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	3 言葉と生活 1 分かりやすい説明をしよう 異なる種類の文章を読み比べよう グラフや写真の読み取り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や相手に合った分かりやすい説明ができるようになる。</li> <li>・複数の文章を読み比べ、自分の考えを深める。</li> </ul>	第3回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	社会との関わり方 職業について 作文	1	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	4 視野を広げる スキマが育む都市の緑と生命のつながり 無彩の色 情報を整理しながら話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい、筆者の価値観と主張をつかむ。</li> <li>・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。</li> <li>・話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。</li> </ul>	第4回				レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	5 社会と関わる 鍋洗いの日々 森で染める人 真夏のひし漁 憧れの職業について調べ、整理してまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。</li> <li>・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。</li> <li>・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。</li> <li>・調べたことを整理して、考えたことを分かりやすくまとめる。</li> </ul>	第5回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	筆者の体験談を読み、仕事に対する筆者の思いと、それを読んで自身が労働について考えたことについて述べる。	1	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	6 言葉と生活 2 発想を広げる方法を使って話し合おう 新聞記事を読んで意見文を書こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想を広げてアイデアを整理してまとめる。</li> <li>・記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。</li> <li>・問いを作って絞り込み、書くための題材を見つける。</li> </ul>	第6回				レポート 視聴報告書
	7月 (12月)	7 世界とつながる 美しさの発見 りんごのほっぺ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。</li> <li>・出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。</li> <li>・助言をもとに推敲して、よりよい文章に仕上げる。</li> </ul>	第7回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	社会との関わり方 職業について 作文	1	レポート 視聴報告書
	7月 (12月)	8 未来に目を向ける 不思議な拍手 真の自立とは 資料を活用して発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。</li> <li>・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。</li> <li>・発表の仕方や話の聞き方を工夫する。</li> </ul>	第8回				レポート 視聴報告書
9月 (1月)	単位認定試験						1	考査
面接指導(単位時間) 合計							1	



# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
国語	論理国語a	2	論国701	東京書籍	新編論理国語

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	文章の主旨や筆者の主張を的確に捉えられるように、語句や慣用句の意味を正しく理解させる。また、それらを自分の表現に活用できるようにする。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解することができたか。また、個々の段落の内容と相互段落の関係を理解することができたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 評論を読んで、表現の特徴に注意して筆者の考えを読み取ることができたか。また、提示された問題を的確に把握することができたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 筆者の主張を踏まえ、自分の考えをまとめることができたか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	1. 広がる風景 ・「対話とは何か」 ・「世界をつくり替えるために」	評論を読んで、表現の特徴に注意して筆者の考えを読み取ることができる。	第1回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	慣用句の意味を正しく理解し、活用できるようにする。	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	5月 (11月)	2. 考える手がかり ・「少女たちの「ひろしま」」 ・「「ふしぎ」ということ」	文章の構成や内容を的確に捉えながら読んで、論じられている事柄について考えることができる。	第2回				
	5月 (11月)	3. 人間と知性 ・「学ぶことと人間の知恵」 ・「ラップトップ抱えた「石器人」」	人間と知性を巡る複数の評論を読んで、自分の考えを深める。	第3回				
	6月 (11月)	4. 現実の中で ・「思考の肺活量」 ・「安心について」	表現に注意して評論を読み、提示された問題を的確に把握する。	第4回	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (12月)	5. ものの見方 ・「弱肉強食は自然の摂理か」 ・「複数の「わたし」」	学問的な見地から書かれた評論を読んで、もの見方を広げる。	第5回				
	7月 (12月)	6. 働く喜び ・「はじめに「言葉」がある」 ・「楽に働くこと、楽しく働くこと」	さまざまな観点から書かれた働く人の文章を読んで、働くことについて考えを深める。	第6回				
	9月 (1月)	単位認定試験						1
面接指導(単位時間) 合計							1	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
国語	論理国語b	2	論国701	東京書籍	新編論理国語

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりようとする態度を養う。
目標に向けての具体的な取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	文章の主旨や筆者の主張を的確に捉えられるように、語句や慣用句の意味を正しく理解させる。また、それらを自分の表現に活用できるようにする。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解することができたか。また、個々の段落の内容と相互段落の関係を理解することができたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を的確に捉えることができたか。また、具体例と抽象的な説明に着目して、評論の内容を的確に捉えることができたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 筆者の主張を踏まえ、自分の考えをまとめることができたか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
後期 (前期)	10月 (4月)	1.時代をひらく ・「最初のペンギン」 ・「豊かさと生物多様性」	論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を的確に捉える。	第7回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	自分の考えを的確に表現するための方法を学習する。 (語順・読点・接続語)	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月 (5月)	2.新しい視点から ・「物語の外から」 ・「カフェの開店準備」	体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉える。	第8回				
	11月 (5月)	3.科学と人間 ・「鏡としてのアンドロイド」 ・「ロボットが隣人になるとき」	科学や哲学の見地から書かれた評論を読んで、人間について考えを深める。	第9回				
	11月 (6月)	4.豊かな認識 ・「言葉は「ものの名前」ではない」 ・「科学的「発見」とは」	評論を読んだ的確に理解し、論じられている物事への認識を深める。	第10回	11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	12月 (6月)	5.知のゆくえ ・「知識における作者性と構造的性」 ・「もう一つの知性」	対比に注意して評論を読み、筆者の主張を的確に捉える。	第11回				
	12月 (7月)	6.明日をみつめて ・「ホンモノのおカネの作り方」 ・「未来のありか」	具体例と抽象的な説明に着目して、評論の内容を的確に読み取る。	第12回				
	1月 (9月)	単位認定試験						
面接指導(単位時間) 合計							1	





# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
国語	古典探究a	2	古探701	東京書籍	新編古典探究

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	古典に親しみながら正確な理解と的確な読み取りができるよう、レポート及び視聴報告書では系統的かつ多様な学習活動を行うような課題に取り組む。スクーリング時には、古典作品をより深く読み味わうとともに、考え話し合う学習活動に取り組む。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 <b>【思考・判断・表現】</b> 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法	
				回	時期	内容	時間		
前期	4月	1 説話に親しむ・随筆を読む 十訓抄 徒然草	・説話・随筆を読み、自然や人間に対する古人の感性を理解する。 ・言葉の変遷という観点から古語と現代語を比較し、国語の特質について考える。	第1回	4月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	5月	2 随筆を味わう 方丈記	・古人のものの見方、感じ方の特色を理解する。	第2回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	5月	4 物語を読む 竹取物語 5 物語を味わう 源氏物語	・物語を読み、その趣旨を捉え、古人のものの見方、感じ方の特色を理解する。 ・登場人物の心情を捉え、ものの見方や感じ方を理解する。	第3回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	6月	6 日記を読む 土佐日記・更級日記 7 近世文学の世界・伝承の世界 世間胸算用・古事記	・日記文学・近世の文章の特色を理解し、人々のものの見方や感じ方、考え方について理解を深める。	第4回	6月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	6月	1 故事と小話 小話 2 唐詩と文 唐詩 3 中国の知恵 寓話	・漢文を正確に訓読し、話の展開や内容を味わう。 ・人物の生き方や考え方に触れ、人間の生き方について考えを深める。 ・詩に詠われた情景や作者の心情を読み取り、ものの見方や感じ方を豊かにする。 ・人間関係や時代の状況を踏まえるとともに、古代中国の思想に触れ、内容を的確に捉える。	第5回	6月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	7月	5 漢文の基礎	漢文の読み方、句形などについて基礎的な事項を確認する。	第6回	7月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	9月	枕草子 伊勢物語 孟子 荀子 老子	・古典を読み、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・古典を読み、我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。	スクーリング 6～7月		・古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷について話し合い、報告する。 ・諸子百家の思想で誰の意見に賛成できるか報告する。	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
	9月	単位認定試験						1	考査
	<b>面接指導(単位時間) 合計</b>							<b>1</b>	







# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
地歴	地理探究a	2	地探701	東京書籍	地理探究
目標 【学習指導要領】		<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>			
目標に向けての具体的な取り組み 【指導上の留意点】		<p>・地理総合で身に付けた知識を活用しつつ、地形や気候、自然環境、自然災害について図や写真などを活用し理解深めさせる。</p> <p>・現代の食糧、資源エネルギーの諸問題についての背景を理解するためグラフを活用し、グラフを読み取る力を養う。</p>			
評価の観点		<p>【知識・技能】 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けたか。</p> <p>【思考・判断・表現】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したことを表現できたか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度がみられたか。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようという意欲がみられたか。</p>			

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	第1編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第1節 世界の地形	世界の様々な地形について特徴を理解させる。	第1回	5月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	第2節 気候と自然環境 第3節 気候と人々の生活	世界の気候や自然環境の理解を深め、そこに住む人々の生活について考察させる。	第2回				
	5月 (11月)	第4節 日本の自然環境と自然災害 第5節 世界の環境問題 第2章 産業と資源 第1節 産業の発展と社会的分業	日本や世界の自然環境と自然災害、環境問題を学び、持続可能な社会のあり方について考察させる。	第3回				
	6月 (11月)	第2節 農林水産業 第3節 食料問題 第4節 エネルギーと鉱産資源	農林水産業に理解を深め、食糧問題やエネルギー、資源についての問題やその原因を多角的に理解、考察させる。	第4回	スクリーニング 6月～7月 (10月～12月)	資源エネルギー、工場地域の立地、サービス業の発達、交通通信の発達と観光の関わり(講義)	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (12月)	第5節 資源・エネルギー問題 第6節 工業の立地と工業地域の変容 第7節 第三次産業	資源・エネルギー問題について化石燃料依存、再生エネルギーへの転換への取り組みなどを理解させる。工場の立地についての課題と第三次産業の発達を理解する。	第5回				
	7月 (12月)	第3章 交通・通信・観光 第1節 交通・通信 第2節 貿易と経済連携 第3節 観光	交通の発達によりもたらされるグローバル化について、貿易や観光の観点から多角的に理解を深める。	第6回				
	9月 (1月)	単位認定試験						考査
面接指導(単位時間) 合計							1	



2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	歴史総合	2	歴総701	東京書籍	新選歴史総合

目標 【学習指導要領】	<p>社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
目標に向けての具体的な取り組み 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界と日本の相互的な視野から、グローバル化する国際社会に主体的に生きる力を養う。</li> <li>・日本の歴史について学び、他国や他国の文化を尊重する大切さを養う。</li> </ul>
評価の観点	<p>【知識・技能】 日本及び世界の歴史の展開について理解するとともに、歴史の大きな変化について日本と世界がつながっていることが理解できたか。</p> <p>【思考・判断・表現】 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して世界の国々の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなど、主題について多面的・多角的に考察することができたか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現に向けて、課題に対して主体的に追及することができたか。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法	
				回	時期	内容	時間		
後期	10月	第1章 歴史の扉 第1節 歴史と私たち 第2節 歴史の特質と資料 第2章 近代化と私たち 第1節 近代化への問い 第2節 結び付く世界と日本の開国	18世紀のアジアの経済や社会、産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界市場の形成を理解させる。	第1回				レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
	10月	第2章 近代化と私たち 第3節 国民国家と明治維新 第4節 近代化と現代的な諸課題	日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。	第2回	スクーリング 10月～12月	世界市場の形成について(講義)	1		
	11月	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 第2節 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦、日本の経済成長、国際連盟の成立などを基に、第一次世界大戦後の国際協調体制の理解と、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解させる。	第3回					
	11月	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第3節 経済危機と第二次世界大戦 第4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 第4章 グローバル化と私たち 第1節 グローバル化への問い	第二次世界大戦が世界に与えた影響に着目し、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会の復帰を理解させる。また、グローバル化に伴う社会生活の変容について理解させる。	第4回					
	11月	第4章 グローバル化と私たち 第2節 冷戦と世界経済	冷戦が各国に及ぼした影響に着目し、冷戦下の世界経済や地域連携、経済成長による社会の変容について理解させる。	第5回	スクーリング 10月～12月	メディア学習により免除	0		レポート 視聴報告書
	12月	第4章 グローバル化と私たち 第3節 世界秩序の変容と日本 第4節 現代的な諸課題の形成と展望	経済の自由化や技術革新の影響、民主化や地域統合の背景と影響に着目し、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に理解させる。	第6回					
	2月	単位認定試験						考査	
面接指導(単位時間) 合計								1	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	日本史探究a	2	日探701	東京書籍	日本史探究

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・各時代の特色について、地図や年表などの歴史資料を活用し、日本の歴史に対する興味関心を高める。 ・文化に関する学習については、それを生み出した時代的背景や外国との交流にも着目し、日本の伝統と文化について理解を深める。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、見通しを持って学習に取り組もうとしているか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、伝統と文化の特色、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察し、また、考察、構想したことを効果的に説明することができているか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養おうとしているか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第1章 先史社会の生活と文化 第2章 歴史資料と先史・古代の展望 第3章 古代社会の形成と展開 1節 律令国家の形成と古代文化の展開	縄文、弥生文化の特徴を理解する。また、古墳文化の特色と大和王権の成立について、中国や朝鮮半島との関係に着目しながら理解する。	第1回	5月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	第3章 古代社会の形成と展開 1節 律令国家の形成と古代文化の展開 4 平城京と天平文化 2節 摂関政治と貴族文化	律令国家が形成されるまでの過程や、奈良・平安時代の政治、文化の特色及び院政のしくみ、平氏政権の成立について理解を深める。	第2回				
	5月 (11月)	第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 第2章 歴史資料と中世の展望 第3章 中世社会の展開 1節 武家政権の成立と朝廷	資料を基に、武家権力が社会をどのように変えたか、また、武家政権そのものがどのように変化したのかについて理解を深める。	第3回	スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	鎌倉幕府の仕組みと鎌倉新仏教及び江戸幕府成立までの過程と幕藩体制の意味について理解する。 (講義)	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	第3章 中世社会の展開 2節 武家支配の広がり国際交流	室町幕府成立の過程を学び、東アジアの国々との交易の中で、文化の発達がみられたことを理解する。	第4回				
	6月 (12月)	第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望 第3章 近世社会の展開 1節 幕藩体制の確立 1 江戸幕府と大名・朝廷	戦国時代の大名や社会の特徴及び大航海時代という背景のもと、日本にヨーロッパ文化が伝来したことを学ぶ。また、織豊政権による天下統一について理解を深める。	第5回				
	7月 (12月)	第3章 近世社会の展開 1節 幕藩体制の確立 2 近世の身分と人々の暮らし 3 アジアのなかの幕府体制 4 武断政治から文治政治へ 5 幕藩体制下の社会の発展	江戸幕府の組織と幕藩体制の特色、鎖国政策について理解を深めるとともに、17世紀以降の人々の生活の変化についての要因について理解を深める。	第6回				
	9月 (1月)	単位認定試験						1
面接指導(単位時間) 合計							1	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	日本史探究b	2	日探701	東京書籍	日本史探究

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・江戸幕府滅亡後の日本の近代化への歩みを、国際社会の動きと関連付けて理解させる。また、二度の世界大戦を現代と結び付けて考え、平和で民主的な社会とは何かを考える力を身に付けさせる。 ・すべての単元において単なる知識の暗記ではなく、歴史的な見方や考え方を養う。
<b>評価の観点</b>	【知識・技能】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、見通しを持って学習に取り組もうとしているか。 【思考・判断・表現】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、伝統と文化の特色、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察し、また、考察、構想したことを効果的に説明することができているか。 【主体的に学習に取り組む態度】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養おうとしているか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
後期 (前期)	10月 (4月)	第3編 近世の日本と世界 第3章 近世社会の展開 2節 近世社会の成熟と幕藩体制の動揺	幕藩体制下の政治・経済・産業の発展、江戸時代の文化について理解する。また、江戸時代の学問の新傾向について理解を深める。	第7回	11月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	10月 (5月)	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望 第3章 近現代社会の展開 1節 近代的制度の導入と新しい国際関係 1 制度改革と殖産興業政策 2 文明開化と教育制度の整備	開国から幕府の滅亡に至るまでの経緯を、国際環境の変化に着目しながら理解する。また、欧米の文化や思想の影響を受け、日本の近代化が進んだことを理解する。	第8回				
	11月 (5月)	第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 近現代社会の展開 第2節 国民国家と資本主義の成立	明治初期の国際情勢と自由民権運動、大日本帝国憲法の成立について理解する。また、日清・日露戦争前後の日本と外国との関係について理解を深める。	第9回				
	12月 (6月)	第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 近現代社会の展開 第3節 両対戦間木期の日本 第4節 第二次世界大戦と日本	第一次世界大戦前後の対外政策や、大戦が日本社会に与えた影響について考察する。また、太平洋戦争と日本について理解を深める。	第10回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	第一次世界大戦前後の対外政策や、大戦が日本社会に与えた影響及び太平洋戦争について理解する。 (講義)	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	12月 (6月)	第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 近現代社会の展開 5節 占領と革命 6節 国際社会への復帰と高度経済成長	占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、冷戦の開始と経済復興について考察する。また、戦後の日本経済の発展と国民生活の変化について理解を深める。	第11回				
	1月 (7月)	第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 近現代社会の展開 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本 8節 新しい国際秩序と日本の課題 第4翔 現代の日本の課題の探究	石油危機により、高度経済成長の時代が終わりを迎えたことを学ぶ。ソ連の解体と冷戦の終結、アジア諸国の経済発展について理解する。	第12回				
	1月 (9月)	単位認定試験						1
面接指導(単位時間) 合計						1		

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	世界史探究a	2	世探701	東京書籍	世界史探究

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
目標に向けての具体的な取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項との連続性に留意し、生徒の興味関心を掘り起こす指導を工夫する。</li> <li>・地理的条件とも関連付け、時間的・空間的な比較などを行う指導を工夫する。</li> <li>・年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、関係諸機関などと円滑な連携協同を図り、社会とのかかわりを意識した指導を工夫する。</li> </ul>
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 世界の歴史の大きな枠組みに関わる諸事象について理解するとともに、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 <b>【思考・判断・表現】</b> 世界の歴史的事象に多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想する力やそれらを効果的に説明、議論する力を養う。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 世界の歴史的事象に対し、主体的に探究しようとする態度を養う。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	第1編 諸地域の歴史的特質 第1章 古代文明の出現 1 農業と気候 2 古代オリエントとエーゲ海地域 3 南アジアの古代文明 4 東アジアにめばえた文明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエント文明などを基に古代文明の歴史的特質を理解させる。</li> <li>・文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果に着目して多面的・多角的に考察させる。</li> </ul>	第1回	5月 (11月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	第1編 諸地域の歴史的特質 第2章 西アジアと地中海周辺 1 古代オリエントの統一 2 古代ギリシアとヘレニズム世界 3 ローマ帝国と地中海世界 4 地中海世界とアジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立を基にそれらの地域の歴史的特質を理解させる。</li> </ul>	第2回				
	5月 (11月)	第1編 諸地域の歴史的特質 第3章 南アジア 第4章 東南アジア 第5章 東アジアと中央ユーラシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家を基に、南アジアの歴史的特質を理解させる。</li> </ul>	第3回				
	6月 (11月)	第1編 諸地域の歴史的特質 第6章 アフリカ、オセアニア、古アメリカ 第2編 諸地域の交流と再編 第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ、オセアニア、古アメリカの文明について理解させる。</li> <li>・イスラーム世界の拡大と繁栄について理解させる。</li> </ul>	第4回	スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	メディア学習 により免除	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (12月)	第2編 諸地域の交流と再編 第8章 中世ヨーロッパ 第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中世ヨーロッパ社会の展開・成熟・文化について理解させる。</li> <li>・中華世界の変容とモンゴル帝国について理解させる。</li> </ul>	第5回				
	7月 (12月)	第2編 諸地域の交流と再編 第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア 第11章 大交易時代と世界の一体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア交易圏の再編と活況、ポルトガルのアジア進出、明と日本・朝鮮の動向について理解させる。</li> </ul>	第6回				
	9月 (1月)	単位認定試験						
面接指導(単位時間) 合計							1	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	世界史探究b	2	世探701	東京書籍	世界史探究

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
目標に向けての具体的な取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項との連続性に留意し、生徒の興味関心を掘り起こす指導を工夫する。</li> <li>・地理的条件とも関連付け、時間的・空間的な比較などを行う指導を工夫する。</li> <li>・年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、関係諸機関などと円滑な連携協同を図り、社会とのかかわりを意識した指導を工夫する。</li> </ul>
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 世界の歴史の大きな枠組みに関わる諸事象について理解するとともに、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 <b>【思考・判断・表現】</b> 世界の歴史的事象に多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想する力やそれらを効果的に説明、議論する力を養う。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 世界の歴史的事象に対し、主体的に探究しようとする態度を養う。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	第2編 諸地域の交流と再編 第12章 ユーラシア諸国の繁栄 第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央アジアと西アジアの繁栄、インドの大国について理解させる。</li> <li>・清と東アジアについて理解させる。</li> </ul>	第7回	5月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	第3編 一体化していく世界 第14章 国民国家と近代社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一体化していく世界、産業革命と工業化、アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立について理解させる。</li> </ul>	第8回				
	5月 (11月)	第3編 一体化していく世界 第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容 第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業資本主義の世界への波及と欧米社会、西アジアの危機と改革の始まりなどについて理解させる。</li> </ul>	第9回				
	6月 (11月)	第3編 一体化していく世界 第17章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容 第18章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦、ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編、大戦後のアメリカ合衆国とヨーロッパについて理解させる。</li> </ul>	第10回	スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	メディア学習により免除	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (12月)	第3編 一体化していく世界 第19章 第二次世界大戦と戦後の東アジア 第4編 グローバル化と地球的課題 第20章 冷戦の世界化と国際制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア・太平洋戦争と日本の敗戦、帝国の解体と分断国家の形成、アジア諸国の独立と脱植民地化、朝鮮戦争保東アジアの冷戦について理解させる。</li> </ul>	第11回				
	7月 (12月)	第4編 グローバル化と地球的課題 第21章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化 第22章 21世紀の地球的課題と人類社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ合衆国の覇権の動揺と冷戦の変容、そして世界の諸地域について理解させる</li> </ul>	第12回				
	9月 (1月)	単位認定試験						1
面接指導(単位時間) 合計							1	



# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
公民	公共	2	公共 701	東京書籍	公共

目標 <b>【学習指導要領】</b>	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	法律や経済のしくみ、国際的な問題などについての理解を深め、社会を構成する一員としての意識を育てる。 身近な例について様々な視点で考える経験を通して、日々移行行く社会の中でも物事を自分の問題として考えられる力と習慣を身に付けさせる。 単なる知識の暗記にとどまらないようにする。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現できたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う姿勢がみられたか。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を育もうという学びへの意欲がみられたか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	第1部 「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち — 社会のなかの自己 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 — 共に生きるための倫理	自らのこと、社会のことを理解し、考えられるようになるための様々な視点を身に着ける。 青年期、自己形成、公共空間や先人たちの思想や宗教について理解する。	第1回	5月(11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	第1部 「公共」のとびら 第3章 公共的な空間における基本的原理 — 私たちの民主的な社会 第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	公共的な空間における基本原理を理解する。 民主主義やその課題、国会や内閣のしくみと役割について理解し、行政と住民のあり方について考える態度を身に着ける。	第2回				
	5月 (11月)	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第2章 法の働きと私たち	法の働きや種類、社会規範について学び、自分たちの生活が法と密接にかかわっていることを理解する。 法による規制とそれ以外の問題解決策について考え、幅広い視点で問題を解決する力を養う。	第3回	スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	市場経済のしくみ、市場の限界、選挙制度、有権者教育(講義)	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第3章 経済社会で生きる私たち	経済のしくみや日本経済の歴史を理解する。持続可能な社会保障制度について主体的に考え、判断するための思考力を身に着ける。	第4回				
	6月 (12月)	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第4章 私たちの職業生活 第5章 国際社会のなかで生きる私たち	働くことについての考え方を養ったり、労働問題や労働に関する法律を理解したりして、未来の職業生活への意識づけを行う。 国際社会のしくみを学び、平和を守るという意識を高める。	第5回				
	7月 (12月)	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第5章 国際社会のなかで生きる私たち 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	国際平和や国際経済の課題について、自ら考える態度を養う。 持続可能な社会を作るために必要なことを考え続ける人になるという姿勢を身に着ける。	第6回				
9月 (1月)	単位認定試験						1	考查
					面接指導(単位時間) 合計			1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学 I a	2	数 I 704	東京書籍	新数学 I

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
------------------------------	--

<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数学 I」だけで、高等学校の履修を終える生徒に配慮する。</li> <li>・「数学 I」に続けて深く学ぶ生徒にはその後の科目との系統性を考慮する。</li> <li>・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。</li> </ul>
---	--

<b>評価の観点</b>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。</li> <li>・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。</li> <li>・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。</li> <li>・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>
--------------	---

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	4月 (10月)	<b>1章 数と式</b> 1節 文字と式 1 文字を使った式  2 多項式と単項式	文字を含んだ式の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができる。  単項式、単項式の次数、係数、多項式、項、定数項、整式、同類項、整式の次数、n次式など、式についての用語の意味を理解し、整式を整理するなかで、式についての見方を豊かにする。	第1回	スクーリング 6,7月 (10~12月)	文字を使った式	0.1	行動観察 課題プリント
					4月 (10月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書

4月 (10月)	1章 数と式 1節 文字と式 3 多項式の計算(1) 4 多項式の計算(2)	整式の加法・減法の仕組みを理解し、それらの計算ができる。  指数法則、単項式の乗法について理解し、さらに分配法則を用いて整式を展開することができる。	第1,2回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	多項式の計算(1)	0.1	行動観察 課題プリント
				4月 (10月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
5月 (11月)	1章 数と式 1節 文字と式 5 乗法公式	乗法公式について理解し、乗法公式が利用できる。また、式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど、見通しをもって整式を展開することができる。	第2回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	乗法公式	0.1	行動観察 課題プリント
5月 (11月)	1章 数と式 1節 文字と式 6 因数分解(1) 7 因数分解(2) 8 展開、因数分解のくふうと利用	分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し、因数分解の公式が利用できる。また、式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど、見通しをもって因数分解することができる。	第2回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	因数分解(2)	0.1	行動観察 課題プリント
				4月 (10月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
5月 (11月)	1章 数と式 2節 実数 1 平方根 2 根号をふくむ式の計算	根号を含む式の基本的な計算をすることができる。また、分母の有理化について理解し、それを活用する能力を伸ばす。	第3回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	平方根	0.1	行動観察 課題プリント
				4月 (10月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (12月)	1章 数と式 2節 実数 3 数の分類 4 分数と小数	自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解して、それらを区別できる。さらに、実数について理解するとともに、数を拡張することに興味をもつ。	第1,2,3回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	分数と小数	0.1	行動観察 課題プリント
				5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (12月)	1章 数と式 3節 方程式と不等式 1 1次方程式 2 不等式 3 不等式の性質	1次方程式について理解し、1次方程式を解くことができる。  不等号の意味を理解し、数量の大小関係を不等式で表すことができる。  不等式を調べることによって、不等式の性質を理解する。	第4回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	不等式	0.1	行動観察 課題プリント
				5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (12月)	1章 数と式 3節 方程式と不等式 4 不等式の解 5 不等式の解き方 6 2次方程式とその解き方 7 2次方程式の解の公式	不等式の性質を用いて不等式を変形し、解くことができる。  1次不等式を利用して、文章題を解決することができる。  2次方程式について理解し、平方根の考え、因数分解、解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。	第4回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	不等式の解 2次方程式とその解き方	0.1	行動観察 課題プリント
				6月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書

7月 (12月)	<b>4章 データの分析</b> 1節 データの分析 1 データにもとづいた問題解決の進め方  2 データの特徴の調べ方  3 代表値  4 四分位数と箱ひげ図  5 分散と標準偏差  6 相関関係  7 相関係数  8 データにもとづく考え方	<p>データの特徴をとらえやすくするために、度数分布表、ヒストグラム、相対度数分布表に表すことができ、データを整理する有用性に気づく。</p> <p>データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し、それを平均値、中央値、最頻値などの代表値で表すことができる。</p> <p>データの分布の特徴を表す値として、代表値だけでは不十分であることから、中央値をもとにした四分位数、四分位範囲を理解する。また、それを箱ひげ図に表すことができる。</p> <p>データの分布の特徴を表す値として、代表値だけでは不十分であることから、平均値をもとにした分散、標準偏差を理解し、それを求めることができる。</p> <p>2つの変量の組の値を散布図に表すことによって、2つの変量の相関関係が調べられることを理解する。</p> <p>散布図による相関関係を相関係数により数値化し、相関の強さが表せる有効性を認識する。</p>	第5回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	代表値  分散と標準偏差	0.1	行動観察 課題プリント
	7月 (12月)	その他メディア学習により免除		0	レポート 視聴報告書		
7月 (12月)	<b>5章 集合と論証</b> 1節 集合と論証 1 集合  2 命題と集合  3 命題と証明	<p>部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。</p> <p>命題の真偽と反例を考えることができる。また、必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を知り、さらに図表示による包含関係と関連づけて理解する。</p> <p>命題の逆、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養う。</p>	第6回	スクーリング 6,7月 (10～12月)	命題と集合	0.1	行動観察 課題プリント
	7月 (12月)	その他メディア学習により免除		0	レポート 視聴報告書		
9月 (1月)	単位認定試験						考査
面接指導(単位時間) 合計							1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学 I b	2	数 I 704	東京書籍	新数学 I

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
------------------------------	---

<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・「数学 I」だけで、高等学校の履修を終える生徒に配慮する。 ・「数学 I」に続けて深く学ぶ生徒にはその後の科目との系統性を考慮する。 ・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。
---	--

<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> ・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。  <b>【思考・判断・表現】</b> ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 ・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
--------------	---

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	10月 (4月)	<b>1章 数と式</b> 1節 文字と式 1 文字を使った式  2 多項式と単項式	文字を含んだ式の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができる。  単項式、単項式の次数、係数、多項式、項、定数項、整式、同類項、整式の次数、 $n$ 次式など、式についての用語の意味を理解し、整式を整理するなかで、式についての見方を豊かにする。	第7回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	文字を使った式	0.1	行動観察 課題プリント
					10月 (4月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	10月 (4月)	<b>1章 数と式</b> 1節 文字と式 3 多項式の計算(1)  4 多項式の計算(2)	整式の加法・減法の仕組みを理解し、それらの計算ができる。  指数法則、単項式の乗法について理解し、さらに分配法則を用いて整式を展開することができる。	第8回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	多項式の計算(1)	0.1	行動観察 課題プリント

後期（前期）

				10月 (4月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
11月 (5月)	<b>2章 2次関数</b> 2節 2次関数の値の変化 3 2次関数のグラフと2次不等式 4 いろいろな2次不等式	2次関数のグラフと2次不等式の解の関係を理解し、グラフを利用して2次不等式を解くことができる。	第9回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	2次関数のグラフと2次不等式	0.1	行動観察 課題プリント
				11月 (5月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
11月 (5月)	<b>3章 三角比</b> 1節 鋭角の三角比 1 三角形 2 タンジェント 3 サインとコサイン	相似な三角形の性質を理解し、辺の長さを求めることができる。また、三平方の定理を理解し、直角三角形の辺の長さを求めることができる。  直接測ることができない長さなどを、相似な直角三角形の辺の比を使って求めることを通して、正接の意味を理解する。  正弦、余弦の意味を理解する。また、 $30^\circ$ 、 $45^\circ$ 、 $60^\circ$ の三角比の値を求めることができる。	第10回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	三角比 タンジェント サインとコサイン	0.2	行動観察 課題プリント
11月 (5月)	<b>3章 三角比</b> 1節 鋭角の三角比 4 三角比の利用 5 三角比の相互関係 6 $90^\circ - A$ の三角形	三角比の表の利用の仕方を学習し、三角比の表を活用して三角比の値を求めることができる。また、三角比を利用して具体的な場面の問題を解くことにより、三角比の有用性を認識する。  三角比の相互関係について理解し、1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができる。また、 $90^\circ - A$ の三角比の値を求めることができる。	第9回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	三角比の相互関係	0.2	行動観察 課題プリント
				11月 (5月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
12月 (6月)	<b>3章 三角比</b> 2節 三角比の応用 1 三角形の面積 2 正弦定理 3 余弦定理	与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求めることができる。  三角形の角の正弦の値と対応する辺の長さとの関係、さらに外接円の半径との関係を調べて、正弦定理を理解するとともに、図形の計量の際に正弦定理を有効に活用することができる。  三角形の角の余弦の値と辺の長さとの関係を調べて、余弦定理を理解するとともに、図形の計量の際に余弦定理を有効に活用することができる。	第10,11回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	余弦定理	0.2	行動観察 課題プリント
				11月 (6月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
12月 (6月)	<b>3章 三角比</b> 2節 三角比の応用 4 鈍角の三角比 5 三角比の相互関係 6 鈍角の三角比の利用	座標を用いて三角比を考え、鈍角や $0^\circ$ 、 $90^\circ$ 、 $180^\circ$ まで拡張した三角比の意味を理解する。  角が鈍角の場合も、三角比の相互関係が成り立つことを理解する。また、 $180^\circ - \theta$ の三角比の値を求めることができる。  角が鈍角の場合も、三角形の面積の公式、正弦定理、余弦定理が成り立つことを確認する。また、空間図形において、その中に含まれる三角形に着目し、三角比や定理等を有効に活用して、計量の問題を解決することができる。	第11,12回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	鈍角の三角比	0	行動観察 課題プリント
				12月 (7月)	その他メディア学習により免除	0.1	レポート 視聴報告書
1月 (7月)	単位認定試験						考査

面接指導(単位時間) 合計

1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅱa	2	数Ⅱ717	東京書籍	新数学Ⅱ

目標 <b>【学習指導要領】</b>	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・「数学Ⅰ」の内容を発展、拡充させることができるようにする。 ・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。  <b>【思考・判断・表現】</b> ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	4月 (10月)	1章 方程式・式と証明 1節 整式・分数式の計算 1 3次の乗法公式と因数分解  2 二項定理  3 分数式とその計算	3次の乗法公式と因数分解の公式について理解し、それらの公式が利用できる。  パスカルの三角形を考察し、二項定理が利用できる。  整式の商にあたる分数式とその約分と通分、四則演算について理解する。	第1回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	3次の乗法公式と因数分解  分数式とその計算	0.2	行動観察 課題プリント
					4月 (10月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書

5月 (11月)	1章 方程式・式と証明 2節 2次方程式 1 複素数  2 2次方程式  3 解と係数の関係	虚数単位を理解するとともに、数を実数から複素数に広げることに関心を持ち、従来解けなかった2次方程式にも解があることを理解する。  2次方程式の解と係数の間に成り立つ関係について興味をもって調べ、2次方程式への理解を深める。	第2回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	解と係数の関係	0.1	行動観察 課題プリント
				5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
5月 (11月)	1章 方程式・式と証明 3節 高次方程式 1 整式の除法  2 因数定理  3 高次方程式  4節 式と証明 1 等式の証明  2 不等式の証明	簡単な整式の除法について理解する。  剰余の定理や因数定理について理解し、これらを整式の除法や因数分解などに用いたり、活用したりすることができる。  高次方程式の定義について理解し、因数分解による解法、および因数定理を利用した解法について理解する。  恒等式の意味を理解し、論証について簡単な等式の証明の手順を通して理解する。  不等式の性質を理解し、それを用いて証明することができる。また、代表的な不等式として、相加平均と相乗平均の間に成り立つ関係を理解する。	第3回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	整式の除法	0.1	行動観察 課題プリント
				5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (11月)	2章 図形と方程式 1節 座標と直線の方程式 1 直線上の点の座標  2 平面上の点の座標  3 直線の方程式  4 2直線の関係	座標を利用しての数直線上の2点間の距離、および内分、外分の意味を理解し、その計算をしたり、数直線上に内分点、外分点を表したりすることができる。  座標平面の約束、および平面上の2点について、距離、内分点、外分点の座標の求め方、内分の代表的な応用として三角形の重心の座標について理解する。  1点と傾き、あるいは2点が与えられたときの直線の方程式の求め方を理解し、それを用いることができる。  2直線の交点が方程式を連立して求められること、および、平行・垂直な直線の方程式がどのような関係式で与えられるかを理解し、それらを求めることができる。	第4回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	直線の座標  直線の方程式	0.2	行動観察 課題プリント
				6月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (11月)	2章 図形と方程式 2節 円の方程式 1 円の方程式  2 円と直線  3節 不等式の表す領域 1 不等式の表す領域  2 連立不等式の表す領域	円の定義をもとに方程式を立てること、また、円の方程式の一般形から中心の座標と半径を求めることができる。  円と直線の位置関係が3通りあること、およびそれらが2式を連立させてできる2次方程式の判別式の符号で決まることを理解する。  直線や円によって区切られる領域は、不等式によって表され、その境界が方程式を満たす点であることを理解するとともに、平面上のすべての点が式で表されることを認識する。  集合の共通部分の考えを使って、連立不等式で表される領域を考察する。	第5回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	円の方程式  円と直線  不等式の表す領域	0.2	行動観察 課題プリント
				6月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書



7月 (12月)	3章 三角関数 1節 三角関数 1 一般角	回転量としての角度の扱いに興味をもち、 $360^\circ$ 以上、および負の角度について理解する。	第6回	スクーリング 6~7月 (10~12月)	三角関数の 相互関係	0.2	行動観察 課題プリント
	2 三角関数 3 三角関数の相互関係 4 三角関数のグラフ 5 三角関数の性質	<p><math>180^\circ</math> 以上、および負の角度に対する三角比を求めることができ、それらを関数としてとらえることができる。</p> <p>任意の角度に対しても、相互関係が成り立つことを理解する。</p> <p>三角関数のグラフの特徴を理解し、そのグラフをかくことができる。</p> <p>基本公式を定義から導くことができる。そして、サイン、コサイン、タンジェントの関係についての理解を深める。</p>		7,9月 (12,1月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
9月 (1月)	単位認定試験						考査

面接指導(単位時間) 合計 1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅱb	2	数Ⅱ717	東京書籍	新数学Ⅱ

目標 <b>【学習指導要領】</b>	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-----------------------	---

目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・「数学Ⅰ」の内容を発展、拡充させることができるようにする。 ・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。
------------------------------------	--

評価の観点	<b>【知識・技能】</b> ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。  <b>【思考・判断・表現】</b> ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
-------	---

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	10月 (4月)	<b>3章 三角関数</b> 2節 加法定理 1 加法定理	加法定理の意味とその使い方を理解し、加法定理の応用の広さを認識する。	第7回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	加法定理 弧度法	0.1	行動観察 課題プリント
		2 加法定理の応用  3 弧度法	加法定理の簡単な応用として2倍角の公式と、加法定理の逆として三角関数の合成を理解する  弧度法の意味を理解し、扇形の弧の長さや面積の表し方などについて理解する。		10月 (4月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書

後期（前期）

11月 (5月)	<b>4章 指数関数</b> 1節 指数関数 1 指数の拡張  2 累乗根  3 指数関数とそのグラフ	指数を整数に拡張することに興味をもち、指数法則を用いた計算をすることができる。  分数を指数とする計算ができ、累乗根として表すことができることを理解する。  指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかくことができる。	第8回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	指数の拡張 累乗根	0.1	行動観察 課題プリント
				11月 (5月)	その他メディア 学習により 免除	0	レポート 視聴報告書
11月 (5月)	<b>4章 対数関数</b> 2節 対数関数 1 対数  2 対数の性質  3 対数関数とそのグラフ  4 常用対数	対数の意味を理解し、簡単な対数の値を求めることができる。  指数法則に関連させながら対数の性質を理解する。  対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフをかくことができる。  常用対数の意味と常用対数表の使い方を理解し、それらを桁数計算へ応用できる。	第9回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	対数 対数の性質	0.1	行動観察 課題プリント
				11月 (5月)	その他メディア 学習により 免除	0	レポート 視聴報告書
12月 (6月)	<b>5章 微分と積分</b> 1節 微分係数と導関数 1 平均変化率  2 微分係数  3 導関数  4 接線	平均変化率を物理的な例から導入し、グラフ上の2点を通る直線の傾きと対応していることに気づく。  極限値の定義を知り、平均変化率の極限を考えることを通して、微分係数の意味を理解し、それを求めることができる。  任意の点の微分係数を与える関数としての導関数の意味を理解し、簡単な導関数の計算ができる。  グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の具体的な意味を理解する。さらに、与えられた曲線の方程式から接線の方程式を求めることができる。	第10回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	微分 接線	0.2	行動観察 課題プリント
				12月 (6月)	その他メディア 学習により 免除	0	レポート 視聴報告書
12月 (6月)	<b>5章 微分と積分</b> 2節 導関数の応用 1 関数の増加・減少  2 関数の極大・極小  3 関数の最大・最小	導関数の符号を利用して、関数の増減を理解する。  増加・減少の境目としての関数の極大・極小の意味を理解し、極大値・極小値を求めたり、そのグラフをかいたりすることができる  与えられた条件の範囲で関数のグラフを考察することによって、最大・最小の問題を簡単に解くことができることを理解するとともに、関数の最大・最小を考察することの有用性と微分の重要性を納得する。	第11回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	関数の極大・ 極小	0.2	行動観察 課題プリント
				12月 (6月)	その他メディア 学習により 免除	0	レポート 視聴報告書
1月 (6,7月)	<b>5章 微分と積分</b> 3節 積分 1 不定積分  2 定積分  3 面積	微分の逆演算としての不定積分を理解し、公式をもとに不定積分の計算をすることができる。  定積分の公式について理解し、簡単な定積分の計算をすることができる。  定積分の公式について理解し、簡単な定積分の計算をすることができる。	第12回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	定積分 面積	0.3	行動観察 課題プリント
				1月 (6,7月)	その他メディア 学習により 免除	0	レポート 視聴報告書
1月 (9月)	単位認定試験						考查

面接指導(単位時間) 合計 1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅲa	2	数Ⅲ702	東京書籍	数学Ⅲ Standard

目標 <b>【学習指導要領】</b>	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・「数学Ⅱ」の内容を発展、拡充させることができるようにする。 ・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> ・極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。  <b>【思考・判断・表現】</b> ・数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力を身に付けている。 ・いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	4月 (10月)	<b>1章 関数と極限</b> 1節 関数 1 分数関数とそのグラフ  2 無理関数とそのグラフ  3 逆関数と合成関数	分数関数 $y=(ax+b)/(cx+d)$ のグラフをかくことができる。また、分数関数のグラフの特徴を理解する。  無理関数 $y=\sqrt{ax+b}$ のグラフをかくことができる。また、無理関数のグラフの特徴を理解する。  逆関数の意味を理解し、関数の逆関数を求めることや、関数のグラフからその逆関数のグラフをかくことができる。また、合成関数の意味を理解し、2つの関数の合成関数を求めることができる。	第1回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	分数関数とそのグラフ  逆関数と合成関数	0.2	行動観察 課題プリント  レポート 視聴報告書
		4月 (10月)	その他メディア学習により免除		0			
		<b>1章 関数と極限</b> 2節 数列の極限 1 数列の極限  2 無限等比数列	数列の収束、発散と数列の極限の基本的な性質について理解し、数列の極限を求めることができる。  無限等比数列が収束する条件を理解し、そのことを用いて数列の極限を調べることができる。		スクーリング 6～7月 (10～12月)	数列の極限	0.1	行動観察 課題プリント

前期(後期)	5月 (11月)	3 無限級数	無限級数について理解し、その収束、発散を調べたり、無限級数が収束するとき、その和を求めたりすることや、無限等比級数が収束する条件を理解し、その和を求めたりすることができる。また、図形への応用や循環小数の考察を通して、その理解を深める。	第2回	5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	1章 関数と極限 3節 関数の極限 1 いろいろな関数と極限 2 関数の連続性	指数関数、対数関数、三角関数などの極限を調べることができる。  関数の連続性及び中間値の定理について理解し、ある区間における実数解の存在を証明することができる。	第3回	スクーリング 6~7月 (10~12月)	関数と極限	0.1	行動観察 課題プリント
					5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	2章 微分 1節 微分法 1 導関数 2 積・商の微分法 3 合成関数の微分法	導関数の定義にしたがって、基本的な関数の導関数を求めることができる。また、導関数の基本的な性質を理解する。  積・商の導関数について理解し、それらを用いているいろいろな関数の導関数を求めることができる。  合成関数の微分法及び逆関数の微分法について理解し、それらを用いているいろいろな関数の導関数を求めることができる。また、 $r$ が有理数のときも。	第4回	スクーリング 6~7月 (10~12月)	積・商の微分法	0.2	行動観察 課題プリント
					6月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	2章 微分 2節 いろいろな関数の導関数 1 三角関数の導関数 2 対数関数・指数関数の導関数	三角関数の導関数について理解し、合成関数の微分法を用いて、三角関数を含む関数の導関数を求めることができる。  自然対数の底 $e$ を導入し、対数関数の導関数を理解する。また、対数微分法を理解し、それを用いて、指数関数の導関数を求めることができる。	第5回	スクーリング 6~7月 (10~12月)	三角関数・対数関数・指数関数の導関数	0.2	行動観察 課題プリント
					6月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	7月 (12月)	3章 微分の応用 1節 関数の増減 1 接線の方程式	曲線の接線の方程式及び法線の方程式を求めることができる。また、媒介変数で表された関数の微分について理解し、導関数を媒介変数で表したり、媒介変数で表された曲線の接線の方程式を求めたりすることができる。	第6回	スクーリング 6~7月 (10~12月)	接線の方程式	0.2	行動観察 課題プリント
					7,9月 (12,1月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	9月 (1月)	単位認定試験						0
面接指導(単位時間) 合計								1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅲb	2	数Ⅲ702	東京書籍	数学Ⅲ Standard

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
------------------------------	--

<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・「数学Ⅱ」の内容を発展、拡充させることができるようにする。 ・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。
---	--

<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> ・極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。  <b>【思考・判断・表現】</b> ・数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力を身に付けている。 ・いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
--------------	---

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	10月 (4月)	3章 微分の応用 1節 関数の増減 2 関数の増減  3 第2次導関数とグラフ	平均値の定理について理解し、平均値の定理に基づいて関数の増減に関する性質を証明することができる。また、関数の増減を調べたり、関数の値の変化を調べて、極値を求めたりすることができる。  曲線の凹凸に関する性質を理解する。また、これまでに学習したことを用いていろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。	第7回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	関数の増減	0.1	行動観察 課題プリント
					10月 (4月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月 (5月)	3章 微分の応用 1節 関数の増減 3 第2次導関数とグラフ  2節 微分のいろいろな応用 1 最大・最小	曲線の凹凸に関する性質を理解する。また、これまでに学習したことを用いていろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。  微分法を用いて、関数の最大値・最小値を求めることができる。	第8回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	最大・最小	0.1	行動観察 課題プリント
					11月 (5月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書

後期(前期)

11月 (5月)	3章 微分の応用 2節 微分のいろいろな応用 2 方程式・不等式への応用	微分法や平均値の定理を用いて、不等式を証明することができる。また、方程式の実数解の個数を調べることができる。	第9回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	方程式・不等式への応用	0.1	行動観察 課題プリント
	3 速度・加速度	運動する点の速度・加速度が導関数を用いて表現できることを理解する。		11月 (5月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
12月 (6月)	4章 積分とその応用 1節 不定積分 1 不定積分	不定積分の基本的な性質や公式を理解し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。	第10回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	不定積分	0.2	行動観察 課題プリント
				12月 (6月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
12月 (6月)	4章 積分とその応用 1節 不定積分 2 置換積分法	置換積分法について理解する。また、この方法により不定積分を求めることができる。	第11回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	定積分	0.2	行動観察 課題プリント
	3 部分積分法	部分積分法について理解する。また、この方法により不定積分を求めることができる。		12月 (6月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
1月 (6,7月)	2節 定積分 1 定積分	いろいろな関数の定積分の値を求めることができる。	第12回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	面積	0.3	行動観察 課題プリント
	3 定積分で表された関数	置換積分法や部分積分法を用いて、定積分の値を求めることができる。また、偶関数と奇関数の定積分の性質を理解し、定積分の値を求めることができる。		1月 (6,7月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
1月 (9月)	単位認定試験						考查

面接指導(単位時間) 合計

1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学A	2	数A704,705	東京書籍	「新数学A」「新数学A 解答編」

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	<p>(1) 図形の性質, 場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と人間の活動の関係について認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間関係などに着目し, 図形の性質を見だし, 論理的に考察する力, 不確実な事象に着目し, 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力, 数学と人間の活動との関わりに着目し, 事象に数学の構造を見だし, 数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の性質を理解するとともに, 既習の内容から新たな性質を見だし, その性質について考察できるようにする。</li> <li>・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め, それを事象の考察に活用できるようにする。</li> <li>・単なる知識の暗記ではなく, 数学的活動を通して, それらを数理的に考察することの有用性を認識できるようにする。</li> </ul>
<b>評価の観点</b>	<p><b>【知識・技能】</b>                      事象を数学化したり, 数学的に解釈したり表現・処理したりすることに関する技能を身につけている。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b>                      数学を活用して事象を論理的に考察したり, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察したりすることができる。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>                      数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりすることができる。</p>



学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	10月 (4月)	<b>1章 場合の数と確率</b> 1節 場合の数 1 集合  2 集合の要素の個数  3 個数の数え方  4 和の法則と積の法則  5 順列	<p>部分集合, 全体集合, 補集合, 共通部分, 和集合などの集合の表し方, 用語, 記号を, 図を用いて理解し, 記号を使って表すことができる。</p> <p>補集合, 和集合について, 集合の要素の個数を求めることができる。</p> <p>具体的な事象に関する場合の数を樹形図や表に整理して調べることができる。</p> <p>和の法則や積の法則について, 具体例を用いて理解し, 場合の数を効率よく求めることができる。</p> <p>樹形図を利用して順列の意味を理解し, 公式を用いて基本的な順列の総数を求めることができる。</p>	第1回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	集合 場合の数 順列	0.1	行動観察 課題プリント
	10月 (5月)	<b>1章 場合の数と確率</b> 1節 場合の数 6 順列の利用  7 いろいろな順列  8 組合せ  9 組合せの利用	<p>順列の考え方をいろいろな場面に利用して, 条件のついた順列の総数を求めることができる。</p> <p>重複順列, 円順列の意味を理解し, 総数を求めることができる。</p> <p>組合せの意味や性質を理解し, 公式を用いて基本的な組合せの総数を求めることができる。</p> <p>組合せの考え方をいろいろな場面に利用して, 組合せの総数を求めることができる。</p>	第1回	10月 (5月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書
	10月 (5月)	<b>1章 場合の数と確率</b> 2節 確率 1 事象と確率  2 確率の計算  3 排反事象の確率  4 余事象の確率	<p>試行と事象, 事象の確率について学び, 確率の意味を知り, 基本的な確率を求めることができる。</p> <p>いろいろな事象について, 場合の数をもとに, 確率を求めることができる。</p> <p>確率の加法定理を理解し, 排反事象に分けて確率を求めることができる。</p> <p>余事象の確率を求めることができる。</p>	第2回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	確率の意味 確率の計算 余事象	0.2	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント

11月 (6月)	1章 場合の数と確率 2節 確率 5 独立な試行の確率 6 反復試行の確率	独立な試行の確率が積の法則により求められることを理解し、簡単な独立な試行の確率を求めることができる。  反復試行について理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。	第3回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	独立試行の確率  反復試行の確率	0.2	行動観察 課題プリント
	7 条件つき確率 8 期待値	条件つき確率の意味を理解する。また、確率の乗法定理を理解し、活用できる。  期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。		11月 (6月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書
11月 (6月)	2章 図形の性質 1節 平面図系の基礎 1 直線と角 2 多角形の角 3 三角形の合同と相似	平行線と角の関係を理解し、これらを利用して角の大きさを求めることができる。  多角形の内角、外角の性質を理解し、これらを利用して角の大きさを求めることができる。  三角形の合同条件、相似条件を理解し、これらを利用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。	第4回	11月 (6月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書
	4 基本の作図 5 作図の利用	垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。  図形の性質を利用した角や平行線やいろいろな大きさの角を作図する方法を理解し、目的に合った図形を作図することができる。		スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	基本の作図 作図の利用	0.1	行動観察 課題プリント
11月 (6月)	2章 図形の性質 2節 三角形の性質 1 三角形と比 2 三角形の重心 3 三角形の外心と内心	三角形と比の定理と、その特別な場合の中点連結定理を理解し、それらを利用して、線分の長さを求めることができる。  三角形の中線、辺の垂直二等分線、角の二等分線の性質を考察し、三角形の重心、外心、内心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。		スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	三角形の重心・外心・内心	0.1	行動観察 課題プリント
	4 角の二等分線と線分の比	三角形の角の二等分線と線分の比の定理を理解し、それを用いることができる。		11月 (6月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書

後期(前期)

11月 (7月)	<b>2章 図形の性質</b> <b>3節 円の性質</b> 1 円の接線  2 円周角の定理  3 円に内接する四角形	<p>円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。</p> <p>円周角の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。また、円周角の定理の逆を利用して、4点が同一円周上にあるかどうかを判断できる。</p> <p>円に内接する四角形の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。また、四角形が円に内接する条件を利用して、四角形が円に内接するかどうかを判断できる。</p>	第5回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	円周角の定理	0.1	行動観察 課題プリント
11月 (7月)	4 接線と弦のつくる角  5 方べきの定理  6 2つの円	<p>接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。</p> <p>円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、長さを求めるなどして、図形に対する能力をさらに伸ばす。</p> <p>2つの円の位置関係と、2つの円に共通する接線の数について考察し、図形に対する見方を豊かにする。</p>	第5回	11月 (6,7月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書
11月 (7月)	<b>2章 図形の性質</b> <b>4節 空間図形</b> 1 直線や平面の位置関係  2 多面体	<p>2直線、2平面、直線と平面の位置関係を理解できる。</p> <p>多面体、正多面体を理解し、オイラーの多面体定理に触れ、空間図形に対する見方を豊かにする。</p>	第5回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	直線や平面の位置関係 多面体の理解	0.1	行動観察 課題プリント
12月 (7月)	<b>3章 数学と人間の活動</b> <b>1節 数や位置を表す</b> 1 数を表す  2 数の表し方のしくみ  3 2進法  4 位置を表す	<p>古代の人々の記数法や漢数字による記数法について理解できる。</p> <p>10進法、2進法の数の表し方のしくみを調べ、法則を見つけることができる。</p> <p>2進法について理解し、2進法と10進法の変換を行うことや、2進法で表された数の計算ができる。</p> <p>平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解できる。また、その考えを空間内の座標へ拡張し、空間内の点の位置を表すことができる。</p>	第6回	12月 (7,9月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書

12月 (7,9月)	2節 数のつくりを調べる 1 約数と倍数  2 最大公約数と最小公倍数  3 ユークリッドの互除法	約数, 倍数, 素数, 素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し, 約数, 倍数を求めたり, 素因数分解したりすることができる。  素因数分解を利用して最大公約数, 最小公倍数を求めることができる。  図, 式を用いて, ユークリッドの互除法を理解する。また, これを利用して, 最大公約数を求めることにより, ユークリッドの互除法の有用性を認識する。		12月 (7,9月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書	
1月 (7,9月)	3節 はかる 1 測る  2 量る  3 計る	長さや面積の単位を調べることができる。また, タレスのピラミッドの高さの測量を通して, 図形の性質や三角比を用いた測量の方法について考察することができる。  体積や重さの単位を調べることができる。  古代の人々の時計や, 暦(うるう年)について理解できる。また, うるう年を決めた理由を考察することができる。	第6回	1月 (7,9月)	その他メディア学習による免除	0	レポート 視聴報告書	
	4節 数学で遊ぶ 1 数で遊ぼう(魔方陣)  2 図形で遊ぼう(64=65?)  3 規則性で遊ぼう(ハノイの塔)  4 論理で遊ぼう(帽子の色あて)  5 和算で遊ぼう(塵却記)	魔方陣のしくみや解き方を筋道立てて考えることができる。また, 魔方陣をつくることができる。  これまでに学んだことを用いて図形の不思議を解明する。また, 新しいパズルをつくることができる。  ハノイの塔の問題を解くことで, 規則性を考えることのよさを知ることができる。  帽子の色当てパズルを解くことで, 論理的に考えることのよさを知ることができる。  「塵却記」の問題を通して, 数学と文化の人間との関わりについての認識を深めることができる。		スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	数で遊ぼう (魔方陣) 和算で遊ぼう	0.1	行動観察 課題プリント	
1月 (9月)	単位認定試験						考査	
面接指導(単位時間) 合計							1	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学B	2	数B702	東京書籍	数学B Standard

目標 <b>【学習指導要領】</b>	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-----------------------	--

目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。
------------------------------------	------------------------------

評価の観点	<p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・数学と社会生活との関わりについて認識を深めている。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を身に付けている。</li> <li>・確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。</li> <li>・日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>
-------	---

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	4月 (10月)	<b>1章 数列</b> 1節 数列 1 数列	数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解する。  等差数列について関心を深め、一般項 $a_n$ を初項 $a$ 、公差 $d$ を使って表せることを理解する。  等差数列の初項から第 $n$ 項までの和の求め方に興味をもち、それが $n$ を用いて表せることを理解する。	第1回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	数列	0.2	行動観察 課題プリント
2 等差数列  3 等差数列の和  4 等比数列  5 等比数列の和		4月 (10月)			その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	

前期（後期）

5月 (11月)	1章 数列 2節 いろいろな数列 1 数列の和と記号Σ  2 いろいろな数列	記号Σの意味と性質を理解し、自然数の累乗の和をΣを用いて表すことができる。  階差数列や数列の和から一般項を求めたり、群数列などの少し複雑な数列の一般項や和を求めたりすることができる。	第2回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	いろいろな数列	0.2	行動観察 課題プリント
				5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
5月 (11月)	1章 数列 3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式  2 数学的帰納法	数列の帰納的定義について理解し、漸化式を扱うことができる。  数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。	第3回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	漸化式	0.2	行動観察 課題プリント
				5月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (11月)	2章 統計的な推測 2節 確率分布 1 確率分布  2 確率変数の平均と分散の性質	確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。また、確率変数の平均と分散の意味を理解し、確率変数Xの平均(期待値)や分散、標準偏差を求めることができる。  確率変数 $aX+b$ の平均や分散、標準偏差について理解し、それらを求めることができる。	第4回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	確率分布	0.2	行動観察 課題プリント
				6月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (11月)	2章 統計的な推測 2節 確率分布 3 確率変数の和と積  2 二項分布	確率変数の和の平均や独立な確率変数の積の平均、和の分散について理解し、それらを求めることができる。  二項分布の意味を理解する。また、二項分布の確率や平均、分散及び標準偏差を求めることができる。	第5回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	確率の変数 二項分布	0.2	行動観察 課題プリント
				6月 (11月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
7月 (12月)	3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 1 数学的モデルを用いた予測  2節 関数モデル 1 関数モデルを後いた予測  3節 確率モデル 1 確率モデルを用いた予測	事象の特徴を捉え、数学的に表現した数学的モデルの考え方について理解する。また、ポップコーンを買うまでの待ち時間を、ある仮定に基づく数学的モデルを用いて考察したり、予測の度合いを高めるために数学的モデルを修正したりすることができる。  日常生活や社会生活などの様々な問題場面に潜む変量間の関係を見いだす関数モデルについて理解する。また、ジュースの販売数と日ごとの最高気温を変数として関数モデルを考え、回帰直線を求めて販売数を予測したり、予測の度合いを高めるために仮定や関数モデルを見直したりすることができる。  身の回りで起こる不確実な要素を含む現象を確率を用いて表現する確率モデルについて理解する。また、貸し出した自転車がそれぞれのポートにどのような確率で返却されるかを、実験データをもとに確率モデルをつくって予測したり、考えたりすることができる。	第6回	7,9月 (12,1月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
				9月 (1月)	単位認定試験		

面接指導(単位時間) 合計

1

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学C	2	数C702	東京書籍	数学C Standard

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
------------------------------	---

目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・単なる知識の暗記ではなく、数学的な見方や考え方を養う。
------------------------------------	------------------------------

評価の観点	<b>【知識・技能】</b> ・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学的な表現の工夫について認識を深めている。 ・事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。  <b>【思考・判断・表現】</b> ・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力を身に付けている。 ・図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力を身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
-------	--

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	10月 (4月)	<b>1章 ベクトル</b> 1節 平面上のベクトル 3 ベクトルの成分  4 ベクトルの内積	平面上のベクトルが2つの実数の組で成分表示されることを平面上の点の座標と関連付けて理解する。また、成分表示を利用してベクトルの大きさを求めることや、条件を満たす単位ベクトルを成分表示することができる。さらに、ベクトルの演算や平行・分解などについての理解を深める。  2つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けて、ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解し、それらの性質を用いてベクトルのなす角や大きさなどを求めることができる。	第1回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	ベクトルの成分	0.1	行動観察 課題プリント
10月 (4月)					その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	

11月 (5月)	<b>1章 ベクトル</b> 1節 平面上のベクトル 4 ベクトルの内積  2節 ベクトルの応用 1 位置ベクトル  3節 空間におけるベクトル 1 空間ベクトル	2つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けて、ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解し、それらの性質を用いてベクトルのなす角や大きさなどを求めることができる。  平面上の点の位置ベクトルについて理解し、ベクトルの演算や成分表示、内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。  空間におけるベクトルの定義や平行条件、ベクトルの分解とその一意性について、平面上のベクトルの考えを空間に拡張できることを理解する。	第2回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	ベクトルの内積 位置ベクトル	0.1	行動観察 課題プリント
	11月 (5月)	その他メディア学習により 免除		0	レポート 視聴報告書		
11月 (5月)	<b>1章 ベクトル</b> 3節 空間におけるベクトル 2 空間座標と空間のベクトル  3 空間のベクトルの内積	空間座標の概念及びその意味や表し方を理解し、それらを用いて空間におけるベクトルを成分表示することができる。また、空間のベクトルでも平面上のベクトルと同様に演算法則が成り立つことを理解し、ベクトルの加減や実数倍などの演算の表し方を平面の場合から類推して統合的・発展的に考察することができる。  平面上のベクトルの内積の考えを空間に拡張して空間のベクトルの内積について理解する。また、そのことを利用して空間のベクトルのなす角や大きさを求めることができる。	第3回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	空間におけるベクトル	0.1	行動観察 課題プリント
	11月 (5月)	その他メディア学習により 免除		0	レポート 視聴報告書		
12月 (6月)	<b>2章 平面上の曲線</b> 1節 2次曲線 1 放物線、楕円、双曲線  2 2次曲線と平行移動	放物線、楕円、双曲線の定義とその方程式について、条件を満たす点の軌跡の考え方を用いて考察し、それらの曲線の基本的な性質について理解する。  2次曲線を平行移動して得られる曲線の方程式について、条件を満たす点の軌跡の考え方を用いて考察することができる。また、平行移動したときの2次曲線の方程式の変化について理解する。	第4回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	放物線、楕円、双曲線	0.2	行動観察 課題プリント
	12月 (6月)	その他メディア学習により 免除		0	レポート 視聴報告書		
12月 (6月)	<b>2章 平面上の曲線</b> 1節 2次曲線 3 2次曲線と直線  2節 媒介変数表示と極座標 1 曲線の媒介変数表示  2 極座標と曲方程式	2次曲線と直線の共有点について、2次方程式の実数解の考え方を用いて考察することができる。また、2次方程式の判別式を用いて、2次曲線と直線の共有点の個数を求めたり、2次曲線の接線の方程式を求めたりすることができる。  曲線の媒介変数表示について理解する。また、媒介変数表示された曲線の方程式を求めたり、サイクロイドなどの様々な曲線の媒介変数表示について理解する。  直交座標と極座標の関係及び極方程式について理解する。また、直交座標で表された図形の方程式を極方程式で表すことやその逆のことができる。	第5回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	曲線の媒介変数表示	0.2	行動観察 課題プリント
	12月 (6月)	その他メディア学習により 免除		0	レポート 視聴報告書		



1月 (6,7月)	3章 複素数平面 1節 複素数平面 1 複素数平面	複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また、複素数の実数倍や、和と差が複素数平面上でどのように表されるかを理解する。	第6回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	複素数平面	0.3	行動観察 課題プリント	
	2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理	複素数の極形式を理解し、 $a+bi$ の形の複素数を極形式で表すことができる。また、複素数の積・商と複素数平面上の回転移動との関係を理解する。  ド・モアブルの定理について理解する。また、ド・モアブルの定理を用いて $z^n = \alpha$ の解を求めることができる。さらに、その解を複素数平面上に図示することができる。		1月 (6,7月)	その他メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
1月 (9月)	単位認定試験						考查	
面接指導(単位時間) 合計							1	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
理科	科学と人間生活	2	科人705	第一学習社	高等学校 科学と人間生活

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・日常生活に関わりのある科学技術を積極的に紹介することで科学に対する興味関心を高め、主体的な学習態度を育成する。 ・実例動画の視聴や実験により、単なる知識の暗記ではなく、科学的な見方や考え方、探究心を養う。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な知識・技能について、レポート各回の学習内容・成果、単位認定試験の成果にもとづき評価する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 人間生活と関連付けて科学的に探究する上での思考力・判断力・表現力を、レポート各回の学習内容・成果、単位認定試験の成果にもとづき評価する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 自然の事物・現象及び科学技術と人間生活との関わりについて、積極的・科学的に探究しようとする態度を、レポート各回の学習内容・成果、面接指導時の学習取り組み・成果、放送視聴状況にもとづき評価する。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	序章 科学技術の発展	情報伝達技術・エネルギー資源活用・交通手段・医療技術などの科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。	第1回	スクーリング 6～7月 (10～11月)	エネルギー資源活用および交通手段の発展についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	5月 (10月)	第Ⅰ章 物質の科学 第2節 衣料と食品	身近な繊維の分類とその製法、食品中の主要栄養素について理解を深める。	第2回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	第Ⅱ章 生命の科学 第2節 微生物とその利用	微生物の働きを、食品や医療など人間生活と関連付けて幅広く理解する。	第3回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6～7月 (10～11月)	食品への発酵の応用例についての観察、実験、講義	1	行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	第Ⅲ章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用	熱の性質、エネルギーの変換や有効利用について、日常生活に関連付けて理解を深める。	第4回	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6～7月 (10～11月)	熱運動、熱伝導、エネルギー変換についての観察、実験、講義	1	行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害	地震活動や火山活動を、身近な自然景観の成り立ちと自然災害に関連付けて、理解を深める。	第5回	スクーリング 6～7月 (10～11月)	地震活動や火山活動による地表の変化についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
7月 (12月)	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活	課題の設定と研究・発表の進め方について理解を深め、これからの科学と、人間生活との関わり方について認識を深める。	第6回	7月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
9月 (2月)	単位認定試験						0	考査
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
理科	物理基礎	2	物基 702	東京書籍	新編物理基礎

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・日常生活の中で、特に物理に関わりのある科学技術を積極的に紹介することで物理に対する興味関心を高め、主体的な学習態度を育成する。 ・視聴動画の観察や実験を通して、物理的な知識・理解にとどまらず、科学的なものの見方や考え方、探究心を育成する。
評価の観点	【知識・技能】物理的な事物・現象の概念や原理・法則を理解し、知識を身に付け、観察、実験では、基本操作、記録、整理ができ、科学的に探究する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】物理的な事物・現象に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、結果を分析して解釈し、根拠を基に考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】物理的な事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探究し、科学的な考え方を日常生活や社会に生かそうとしている。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
後期	10月	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界	物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について基礎的基本的事項を理解する。	第1回	10月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10～12月	等加速度直線運動についての観察、実験、実習、講義	1	行動観察 課題プリント
	10月	2章 力と運動の法則	さまざまな力、力のつり合い、運動の法則、摩擦力について基礎的基本的事項を理解する。	第2回	10月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10～12月	力の見つけ方、運動方程式についての観察、実験、実習、講義	1	行動観察 課題プリント
	10月	3章 力学的エネルギー	運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存について、日常生活と関連性を持たせて理解する。	第3回	スクーリング 10～12月	力学的エネルギーについての観察、実験、実習、講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱	熱と温度、熱の利用について日常生活と関連性を持たせて理解する。	第4回	11月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月	2章 波	波の性質、音と振動について日常生活と関連性を持たせて理解する。	第5回	スクーリング 10～12月	波の重ね合わせの原理、反射についての観察、実験、実習、講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
12月	3章 電気 4章 エネルギーとその利用	物質と電気抵抗、電気の利用、さまざまなエネルギーの特性や利用、放射線の種類や性質、放射性物質の基本的な性質について理解する。	第6回	12月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
1月	単位認定試験						0	考査
<b>面接指導(単位時間) 合計</b>							<b>4</b>	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
理科	化学基礎	2	化基712	第一学習社	高等学校 新化学基礎
<b>目標</b> 【学習指導要領】		物質と変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察実験を行うことなどを通して、物質と変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質と変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3)物質と変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。			
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> 【指導上の留意点】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学と日常生活や社会との関連に気づき、興味を持ち学習できるようにする。</li> <li>・レポートや視聴教材を使い、基礎知識を身につけさせる。</li> <li>・化学で扱う実験や計算を論理的に考えられるようにする。</li> </ul>			
<b>評価の観点</b>		<b>【知識・技能】</b> 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解 科学的に探究するために必要な観察・実験等の技能 <b>【思考・判断・表現】</b> 科学的に探究する力 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 科学的に探究しようとする態度			

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
後期	10月	序章 化学と人間生活 第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素	化学と人間生活とのかわりについて関心を高め、身の回りのものと関連させ物質を探究する方法、基礎知識を身に付けさせる。	第1回	10月 スクーリング (10～12月)	メディア学習により免除 元素と元素記号 物質の分離	0 0.5	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	10月	第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素	原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。	第2回	10月 スクーリング (10～12月)	メディア学習により免除 元素の確認 原子の表記	0 0.5	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月	第I章 物質の構成 第2節 化学結合 第II章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式	原子の構造及び化学結合の関係を理解させる。 物質の性質について観察などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。	第3回	11月 スクーリング (10～12月)	メディア学習により免除 イオンの名称とイオン式	0 0.5	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月	第II章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式	物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。	第4回	11月 スクーリング (10～12月)	メディア学習により免除 分子量・式量 指数の計算 物質量の計算	0 1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	12月	第II章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 第2節 酸・塩基とその反応	物質の性質について探究し、化学結合の関係を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	第5回	12月 スクーリング (10～12月)	メディア学習により免除 電離について	0 0.5	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	1月	第II章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 第3節 酸化還元反応	酸化と還元が電子の授受によることを理解し、酸化還元反応と日常生活や社会とのかわりについて理解する。	第6回	1月 スクーリング (10～12月)	メディア学習により免除 水の電離と水素イオン濃度	0 1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	1月	単位認定試験						0
<b>面接指導(単位時間) 合計</b>							<b>4</b>	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	
理科	化学a(化学)	2	化学701	東京書籍	化学 理論編

<b>目標</b> 【学習指導要領】	化学的な事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
目標に向けての具体的取り組み 【指導上の留意点】	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必用な観察、実験などに関する技能を身に着けるようにする。
評価の観点	<p>【知識・技能】化学的な事物・現象の概念や原理・法則を理解し、知識を身に付け、観察、実験では、基本操作、記録、整理ができ、科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】化学的な事物・現象に見直しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、結果を分析して解釈し、根拠を基に考えを表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】化学的な事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探究し、科学的な考え方を日常生活や社会に生かそうとしている。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期(後期)	4月	第1編 物質の状態 1章 物質の状態 2章 気体の性質	物質の三態に於けるそれぞれの特徴、気体の状態方程式について理解する。	第1回	4月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6~7月	状態変化 結晶の構造	2	行動観察 課題プリント
	5月	第1編 物質の状態 3章 溶液の性質 4章 固体の構造	物質の溶液における状態と化学反応後の結晶の種類・性質・構造について理解する	第2回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月	第2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光	物質の化学反応におけるヘスの法則などについて理解する。	第3回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月	第2編 化学反応とエネルギー 2章 電池と電気分解	化学反応を利用し電気エネルギーを利用する電池などの仕組みについて理解する。	第4回	6月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月	第3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ	反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。		スクーリング 6月~7月	可逆反応と化学平衡 水の電離平衡とpH	2	行動観察 課題プリント
	7月	第3編 化学反応の速さと平衡 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡	可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解する。	第6回	7月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	9月	単位認定試験						0

面接指導(単位時間) 合計 4

## 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
理科	化学b(化学)	2	化学702	東京書籍	化学 物質編

<b>目標</b> 【学習指導要領】	化学的な事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
目標に向けての具体的な取り組み 【指導上の留意点】	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着けるようにする。
評価の観点	<p>【知識・技能】化学的な事物・現象の概念や原理・法則を理解し、知識を身に付け、観察、実験では、基本操作、記録、整理ができ、科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】化学的な事物・現象に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、結果を分析して解釈し、根拠を基に考えを表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】化学的な事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探究し、科学的な考え方を日常生活や社会に生かそうとしている。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期(後期)	10月	第4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物	無機物質の性質や反応を、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解し、それらを日常生活で使っているものと関連付けて性質を理解する。	第7回	10月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	10月	第4編 無機物質 2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型元素の単体と化合物	非金属・典型元素の性質と化合物の特徴を理解する	第8回	10月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10～12月	典型金属元素の性質	2	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	10月	第4編 無機物質 3章 アルコールと関連化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 金属イオンの分離と確認	遷移元素・金属イオンの性質と特徴を理解する。	第9回	10月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月	第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素	有機物の基本的な構造を理解し、その代表的なものの性質、反応を理解する。	第10回	11月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月	第5編 有機化合物 3章 アルコールと関連化合物 4章 有機化合物の特徴と構造	有機物の基本的な構造を理解し、その代表的なものの性質、反応を理解する。	第11回	11月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	12月	第6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 2章 天然高分子化合物 3章 合成高分子化合物 第7編 化学が果たす役割 1章 化学的性質の利用と工業的製法 2章 未来を創る化学	合成高分子化合物の性質及び合成について理解する。高分子化合物が人間生活の中で利用されていることを理解する。	第12回	12月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月	遷移元素の特徴、金属イオンの分離と確認	2	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
1月	単位認定試験							考査
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
理科	生物基礎	2	生基711	第一学習社	高等学校 新生物基礎

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	生物の基本的な知識の定着を図りながら、実際に観察などの活動を通じて科学的思考力・判断力・表現力を育成する。また、事例動画や実験動画、模擬実験などを活用しデータ分析力・解釈力などを習得する。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能 <b>【思考・判断・表現】</b> 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期	4月	観察・実験・調査の手引き 第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 第2節 生物とエネルギー	顕微鏡の正しい使い方を理解する。生物は多様でありながら、共通性を持っていることを理解する。生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。	第1回	4月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	顕微鏡を用いた観察とスケッチの講義	1	行動観察 課題プリント
	5月	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解する。DNAの研究史とあわせてDNA・RNAの構造と遺伝子発現までの流れを理解する。	第2回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング	形質と遺伝子の関係、DNAの構造の講義	1	行動観察 課題プリント
	5月	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 からだの調節と情報の伝達	体内環境の維持に深く関与する体液の組成と働き、臓器の役割を理解する。自律神経、ホルモンがそれぞれ体内環境の調節にどのように関わっているかを理解する。	第3回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	外部環境と体内環境、体液の組成とはたらきの講義	0.5	行動観察 課題プリント
	6月	第3章 ヒトのからだの調節 第2節 免疫	免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。ヒトが病原体から身を守る方法、免疫のしくみを理解する。	第4回	6月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	免疫、血液の凝集の講義	0.5	行動観察 課題プリント
	6月	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	植物の生育・植生と環境との関係性を理解する。バイオームと気温・降水量との関連性、バイオームの特徴について理解する。	第5回	6月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	植生と遷移の要因・しくみの講義	0.5	行動観察 課題プリント
	7月	第4章 生物の多様性と生態系 第2節 生態系とその保全	生態系の構成について理解する。身近な環境でみられる生物の種の多様性に気づく。生物は、食物連鎖によりつながっていて相互作用があることを理解する。	第6回	7月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	生物どうしの関係、種の多様性の講義	0.5	行動観察 課題プリント
9月	単位認定試験						0	考査
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
理科	生物a(生物)	2	生物701	東京書籍	生物

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身に着けるようにする。
評価の観点	【知識・技能】: 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】: 自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】: 自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月	1編生物の進化 1章生命の起源と細胞の進化 2章遺伝子の変化と進化のしくみ 1節	生物の共通性と多様性、生命の誕生について理解する。地球における酸素濃度の上昇や真核生物の誕生、突然変異について理解する。	第1回	4月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	4種類の生物について、写真を見ながら正確にスケッチを行う	1	行動観察、意欲
	5月	2章遺伝子の変化と進化のしくみ 2節～5節	染色体と遺伝子座、遺伝の法則について理解する。減数分裂について理解し、活用することができる。進化の定義について理解し、遺伝子レベルでの進化について理解する。遺伝子プールと遺伝子頻度について具体的な場面も含めて理解している。	第2回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	染色体と遺伝子座、遺伝の法則についての講義	0.5	行動観察、課題プリント
	5月	3章生物の系統と進化	DNAの塩基配列に基づく系統樹・生物の系統の探究について具体的な場面も含めて理解している。生物に分類・ドメインについて理解し、活用することができる。類人猿とヒトの違いについて具体的な場面も含めて理解している。人類の出現と変遷について理解し、活用することができる。	第3回	5月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	確認テスト	0.5	行動観察、知識・意欲
	6月	2編生命現象と物質 1章細胞と物質	細胞を構成する成分・構造はたらしについて理解する。タンパク質の構造について具体的な場面も含めて理解する。酵素としてはたらくタンパク質について具体的な場面も含めて理解する。生命現象とタンパク質について理解し、活用することができる。	第4回	6月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	確認テストの解説	1	行動観察
	6月	2章代謝とエネルギー	代謝とエネルギーについて理解する。呼吸について具体的な場面も含めて理解する。発酵について具体的な場面も含めて理解する。光合成について理解し、活用することができる。	第5回	6月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	代謝とエネルギーについての講義	0.5	行動観察
	7月	3編遺伝情報の発現と発生 1章遺伝情報とその発現	DNAの構造・複製について具体的な場面も含めて理解する。遺伝情報の流れ・RNAと転写について具体的な場面も含めて理解する。翻訳のしくみについて理解し、活用することができる。遺伝情報の変化について理解し、活用することができる。	第6回	7月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月	確認テスト	0.5	行動観察、知識・意欲
9月	単位認定試験						考查	
面接指導(単位時間) 合計							4	



# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
理科	生物b(生物)	2	生物701	東京書籍	生物

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身に着けるようにする。
<b>評価の観点</b>	【知識・技能】:自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】:自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】:自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	10月	3編遺伝情報の発現と発生 2章発生と遺伝子発現	原核生物・真核生物の遺伝子発現の調節について理解する。 動物の発生について具体的な場面も含めて理解する。 胚の細胞の発生運命と遺伝子発現・発現の調節について具体的な場面も含めて理解する。 動物の形と調節遺伝子の発現について理解し、活用することができる。	第7回	10月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月	原核生物・真核生物についての講義	0.5	行動観察、課題プリント
	11月	3章遺伝子を扱う技術	遺伝子を増幅・塩基配列を解読技術について具体的な場面も含めて理解する。 遺伝子組換え技術の利用・技術課題について具体的な場面も含めて理解する。	第8回	11月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月	塩基配列についての講義	0.5	行動観察、課題プリント
	11月	4編生物の環境応答 1章動物の刺激の受容と反応 2章動物の行動	刺激の受容から反応への流れ・ニューロンの興奮について理解する。 刺激の受容と感覚について具体的な場面も含めて理解する。 中枢神経系での情報処理について具体的な場面も含めて理解する。 効果器について具体的な場面も含めて理解する。 動物の行動について理解し、活用することができる。	第9回	11月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月	練習問題	0.5	行動観察、知識意欲
	11月	3章植物の環境応答	植物ホルモンと光受容体・環境要因による発芽の調節について具体的な場面も含めて理解する。 茎や根の成長と環境要因の影響について具体的な場面も含めて理解する。 花芽形成と環境要因の影響・果実の形成と成熟のしくみについて理解する。 器官の老化と脱落のしくみについて理解し、活用する。	第10回	11月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月	練習問題の解説	1	行動観察、意欲
	12月	5編生態と環境 1章個体群と生物群集	個体群と環境・構造と成長について具体的な場面も含めて理解する。 個体間・種間の相互作用について具体的な場面も含めて理解する。 生態系からみた生物について理解し、活用することができる。 生物群集の成り立ちと多種の共存について理解し、活用することができる。	第11回	12月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月	個体群等についての講義	0.5	行動観察、課題プリント
	12月	2章生態系の物質生産と物質循環 3章生態系と人間生活	食物網と物質生産について生態系の物質収支と生態ピラミッドについて具体的な場面も含めて理解する。 生物多様性・人間社会の変化と生態系について具体的な場面も含めて理解する。 生態系の復元について理解し、活用することができる。	第12回	12月	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月	認定試験に向けての練習問題	1	行動観察、課題プリント
□月	単位認定試験							考査
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	体育a	2	保体701	大修館	現代高等保健体育

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、体育の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図る。また、運動の楽しさや喜びを深く味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意する。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保したか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
					回	時期	内容	
後期 (前期)	10月 (4月)	1単元 スポーツの発祥と発展 01スポーツの始まりと変遷	・スポーツがどのように始まったのかを説明できる。 ・なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明できる。 ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。 ・多様なかわり方によるスポーツ文化の変容について例をあげて説明できる。	第1回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	近代スポーツの誕生と国際スポーツへの拡大についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	10月 (5月)	1単元 スポーツの発祥と発展 特設①世界の民族スポーツについて調べよう			10月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	10月 (5月)	1単元 スポーツの発祥と発展 02文化としてのスポーツ			スクーリング 10～12月 (6～7月)	スポーツ文化の変容についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	10月 (5月)	1単元 スポーツの発祥と発展 特設②日本生まれのスポーツ			10月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月 (6月)	1単元 スポーツの発祥と発展 特設③競技スポーツにおける競争の意味			11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月 (6月)	1単元 スポーツの発祥と発展 03オリンピックとパラリンピックの意義	・オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる。 ・パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義について説明できる。		スクーリング 10～12月 (6～7月)	オリンピックとパラリンピックの価値についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月 (6月)	1単元 スポーツの発祥と発展 特設④オリンピックの課題			11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月 (6月)	2単元 スポーツの発祥と発展 特設⑤パラリンピックの課題			11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	12月 (7月)	1単元 スポーツの発祥と発展 04スポーツが経済に及ぼす効果			11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
						スクーリング 10～12月 (6～7月)	スポーツがもたらす経済効果についての講義	1
	1月 (9月)	単位認定試験					0	考査
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	体育b	2	保体701	大修館	現代高等保健体育

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、体育の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図る。また、運動の楽しさや喜びを深く味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意する。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保したか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
					回	時期	内容	
前期 (後期)	4月 (10月)	1単元 スポーツの発祥と変遷 05スポーツの高潔さとドーピング	・スポーツの高潔さを脅かす要因について例をあげて説明できる。 ・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。	第3回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	スポーツにおけるドーピングについての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	5月 (10月)	1単元 スポーツの発祥と発展 特設⑥スポーツの価値について考えてみよう			5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	1単元 スポーツの発祥と発展 特設⑦なぜドーピングは許されないのか			5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	1単元 スポーツの発祥と変遷 06スポーツと環境			スクーリング 6～7月 (10～12月)	これからのスポーツ大会と環境保護についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	1単元 スポーツの発祥と変遷 特設⑧スポーツとまちづくり			・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。 ・スポーツは環境とどのように調和していけばよいのかを説明できる。	6月 (11月)	メディア学習により免除	0
	6月 (11月)	2単元 運動・スポーツの学び方 01スポーツにおける技能と体力	・技能と体力の関係について説明できる。 ・技能や体力を高めるときに気をつけるべき点をあげることができる。 ・技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 ・用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を説明できる。	第4回	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	2単元 運動・スポーツの学び方 02スポーツにおける技術と戦術			スクーリング 6～7月 (10～12月)	練習とトレーニングの基本原則についての講義	1	行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	2単元 運動・スポーツの学び方 特設①スポーツルールはなぜ変わるのか考えてみよう			スクーリング 6～7月 (10～12月)	用具の改良やメディアの発達などによる変化についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	2単元 運動・スポーツの学び方 特設②スポーツとメディアの関係性			11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	7月 (12月)	2単元 運動・スポーツの学び方 特設③スポーツとメディアの関係性			7月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
1月 (9月)	単位認定試験							考査
面接指導(単位時間) 合計							4	



# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	体育d	2	保体701	大修館	現代高等保健体育

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようとする。その際、体育の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図る。また、運動の楽しさや喜びを深く味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意する。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保したか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 01生涯スポーツの見方・考え方	社会の変化にともなうスポーツの役割と楽しみ方の変化を理解し、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方について説明することができる。	第7回	4月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6～7月 (10～12月)	ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方についての講義	1	行動観察 課題プリント
	5月 (10月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 特設. スポーツ科学のすすめ	スポーツにかかわるさまざまな学問・研究分野について理解することができる。		5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 特設. スポーツにかかわる職業	スポーツにかかわるさまざまな職業について理解し、説明することができる。		5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 02ライフスタイルに応じたスポーツ	ライフスタイルとスポーツのかかわり、自分に合ったスポーツライフの設計のしかたについて理解し、説明することができる。		スクーリング 6～7月 (10～12月)	自分に合ったスポーツライフの設定のしかたについての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 特設. 身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう	身のまわりの人のスポーツライフについて調査し、結果をまとめ、発表することができる。		6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 特設. 自分でスポーツライフを設計してみよう	自分に合ったスポーツライフを設計し、発表することができる。	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	6月 (11月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 03スポーツを推進する取り組み	現在にいたるまでの日本のスポーツ推進の歩みや、地域におけるスポーツクラブの状況について理解し、説明することができる。	スクーリング 6～7月 (10～12月)	現在にいたるまでの日本のスポーツ推進の歩みについての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
	12月 (7月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 特設. 諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう	諸外国のスポーツ推進の取り組みやその状況について理解し、説明することができる。	第8回	7月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	12月 (7月)	3単元 豊かなスポーツライフの設計 04豊かなスポーツライフの創造	日本のスポーツライフの特徴を理解し、自分なりの豊かなスポーツライフを創造していくための課題を説明することができる。	スクーリング 6～7月 (10～12月)	日本のスポーツライフの特徴や豊かなスポーツライフへの課題についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
9月 (1月)	単位認定試験							考査
					面接指導(単位時間) 合計			4

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	保健a	2	保体701	大修館	現代高等保健体育

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
目標に向けての具体的な取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行う。</li> <li>・生徒の内容への興味・関心を高めたり、思考を深めたりする発問を工夫する。</li> <li>・自他の健康やそれを支える環境づくりと日常生活との関連が深い教材・教具を活用する。</li> </ul>
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組めたか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	1単元 現代社会と健康 01 健康の考え方と成り立ち ～ 08 休養・睡眠と健康	・現代社会の健康問題や新しい時代の健康の考え方について説明できる。 ・生活習慣病、薬物乱用、精神疾患など、健康にかかわる問題について説明できる。 ・健康のとらえ方や健康のために個人や社会に求められることについて説明できる。	第1回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	心肺蘇生法の方法と手順についての講義・実技	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	5月 (11月)	1単元 現代社会と健康 09 喫煙と健康 ～ 19 健康に関する環境づくり		第2回				
	6月 (12月)	2単元 安全な社会生活 01 事故の現状と発生要因 ～ 06 心肺蘇生法	第3回					
	9月 (1月)	単位認定試験						考査
面接指導(単位時間) 合計						1		

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	保健b	2	保体701	大修館	現代高等保健体育

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行う。 ・生徒の内容への興味・関心を高めたり、思考を深めたりする発問を工夫する。 ・自他の健康やそれを支える環境づくりと日常生活との関連が深い教材・教具を活用する。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組めたか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	10月 (4月)	3単元 生涯を通じる健康 01 ライフステージと健康 ～ 07 中高年期と健康	・私たちの心や体は、高校生の時期から大人に近づき、年齢を重ねながら変化することを理解している。 ・生涯の各段階で健康課題も変化することを理解している。 ・思春期から中高年期までのさまざまな健康問題について説明できる。	第4回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	信頼できる性情報と性行動の選択についての講義	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月 (5月)	3単元 生涯を通じる健康 08 働くことと健康 ～ 10 健康的な職業生活		第5回				
	12月 (6月)	4単元 健康を支える環境づくり 01 大気汚染と健康 ～ 11 健康に関する環境づくりと社会参加	・周囲の自然環境や食品に関する健康問題について理解している。 ・社会の制度や保健活動といった社会環境の在り方について説明できる。 ・社会全体の健康を高めるために、私たち一人ひとりが環境づくりに積極的に参加する意義やその方法について説明できる。	第6回				
	1月 (9月)	単位認定試験						考査
面接指導(単位時間) 合計							1	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
芸術	音楽 I	2	音 I 702	教育芸術社	高校生の音楽1

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことが出来るようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	ささまざまなジャンルの音楽を鑑賞することで、知識を深めるだけでなく感性を育て、歴史的背景を学ぶことでさらに広く深く理解する。 言語の特性と詩や音楽に込められた作者のメッセージを感じ取りながら、様々な言語による表現を行う。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 音楽的な見方、考え方を持つ為に基本的な知識、歴史等を学び、自身で創意工夫して音楽表現をする為に必要な技術を身につけたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 学んだことをもとに自身の音楽表現に生かし、また美しさを味わい楽しみ、さらに表現力を深めていくことができたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 身近な音楽ジャンルだけでなく幅広い音楽文化に親しみ、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく意欲が見られたか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	歌唱	日本歌曲を取り上げ、歌詞の内容を把握し、言葉の特性と楽曲の背景を理解し感性を深める。	第1回	4月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	西洋音楽史	古代～バロック時代の流れを追い、代表的な作曲家、作品を聴きながら音楽の特徴や歴史背景を学ぶ。	第2回	スクーリング 5月～7月 (11月～12月)	西洋音楽の始まりから楽器の発達とともにどのように音楽が発展していったかを考察する。	1	行動観察 課題プリント
	5月 (11月)	西洋音楽史	古典派～近現代の音楽史の流れを追い、代表的な作曲家、作品を聴きながら音楽の特徴や歴史背景を学ぶ。	第3回		誰もが耳にしたことのある作品を中心に取り上げ、時代背景とともに作曲家についても学ぶ。	1	
	6月 (11月)	言葉と音楽	外国歌曲を鑑賞し、言葉の意味を理解し歌唱する。	第4回		ドイツ、イタリア、フランス歌曲を聴き比べ言語による印象の違いや、曲想の違い等理解し実際に歌唱する。	1	行動観察 課題プリント
	6月 (12月)	楽典	西洋音楽の楽典の基礎を学び、理解する。	第5回	6月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	7月 (12月)	日本の伝統音楽	雅楽や民謡、和楽器等を取り上げ、日本の音楽文化と生活や社会とのかかわりを考える。	第6回	スクーリング 5月～7月 (11月～12月)	雅楽を視聴し、どのような楽器が使われているか、また音の響きの違いを感じ取る。	1	行動観察 課題プリント
	9月 (1月)	単位認定試験						
					面接指導(単位時間) 合計			4



# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
芸術	美術 I	2	美 I -702	日本文教出版	高校生の美術1

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
<b>目標に向けての具体的な取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・美術の多様な表現方法や様式について理解し、意図に基づいて構想や表現を工夫する力を養う。また表現することの喜びや楽しさを味わい、実感を通した学びの実現を図る。 ・鑑賞を通して、多様な表現や美術文化についての理解を深めるとともに、感性を高め、生徒の主体的で深い学びの実現を図る。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができたか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができたか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育む意欲が見られたか。また感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとする姿勢が見られたか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法	
				回	時期	内容	時間		
後期 (前期)	10月 (4月)	<b>【絵画】</b> ・身近なものを描く ・植物を描く ・視点と表し方 ・想像を形に ・視覚のトリックを生かして ・大きさを意識して	・身近なものや美しさや全体のイメージを捉え、表現することができる。 ・作者や作品の意図や表現の工夫について、知識を理解を深め、感じ取ることができる。	第1回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	・作品の意図や表現の工夫についての学習 ・身近なものをモチーフとした実技	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント 実技	
	11月 (5月)	<b>【絵画】</b> ・私の見つけた風景 ・人物を描く ・光を捉える	・風景の中の空間や色彩効果を捉え、感じたことを表現できる。 ・作品の特徴や、それがもたらす効果について説明できる。	第2回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	・構図や色彩の効果についての学習 ・人物画についての実技	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント 実技	
	11月 (5月)	<b>【絵画】</b> ・日本美術 ・浮世絵版画の魅力 ・版で表す <b>【デザイン】</b> ・生活を彩る模様	・日本特有の美意識や美術表現の特徴を捉える。 ・日本美術史についての理解を深め、作品を比較、説明できる。	第3回	11月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
		<b>【絵画】</b> ・墨表現の可能性 ・漫画の表現	・墨や漫画の表現の特徴について理解を深め、表現する力を高める。	第3回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	墨表現、漫画表現についての学習	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
	11月 (6月)	<b>【彫刻】</b> ・立体表現の魅力 ・塑像で表す ・彫って表す ・抽象表現で表す ・身近な素材と立体表現 ・祈りの形	・立体表現の特徴や触覚的なイメージを捉える。 ・西洋美術や立体表現の変遷について、知識と理解を深め、作品を比較、説明できる。	第4回	11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	12月 (6月)	<b>【デザイン】</b> ・デザインの世界 ・私の考えるデザイン ・イラストレーションの魅力 ・キャラクターのデザイン ・パッケージのデザイン ・暮らしの中の使うデザイン	・デザインの役割や意義について知識と理解を深める。 ・身の回りのデザインについて関心を持ち、デザインの意図を捉えることができる。	第5回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	多様なデザインの、特徴と意義についての学習	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
		<b>【デザイン】</b> ・サインのデザイン ・ポスターで伝える ・デザインとテクノロジー	・文字やイラスト、色彩についての効果や特性についての理解を深める。	第5回	12月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	12月 (7月)	<b>【映像メディア表現】</b> ・写真で表す ・アニメーションの手法 ・映像で伝えるメッセージ ・映像に包まれて	・映像表現の特徴や、表現効果についての理解を深める。 ・アニメーションの仕組みについて理解し、構成や効果を考えて表現できる。	第6回	12月 (7月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
			単位認定試験(実技)						
						面接指導(単位時間) 合計			4

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
芸術	書道 I	2	書 I 701	東京書籍	書道 I

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	(1)書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (2)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
<b>目標に向けての具体的な取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 ・書の表現や形式・多様性などを理解し、意図に基づいて構想し表現を工夫し、お互いの作品を肯定的に鑑賞し合える力を養う。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 用具・用材の特徴と表現効果との関り、線質や書風と用筆・運筆との関りについて、理解している。 <b>【思考・判断・表現】</b> 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想・工夫している。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 主体的に漢字の書・仮名の書・実用的な書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法	
				回	時期	内容	時間		
後期 (前期)	10月 (4月)	書写から書道へ ○書写で学んできたこと ○具・用材の製造方法	・書道 I を学習する目的、用具・用材の特徴について知識と理解を深める。書の表現効果を味わい感じ取る。	第1回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	姿勢・執筆法についての学習	0.5	レポート 視聴報告書 実技	
	10月 (5月)	書写から書道へ ○書的美を楽しむ ○書写で学んできたこと ○楷書の基本 ○行書の基本	・漢字の書体の変遷・文字の伝統と文化について理解を高める。		10月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	10月 (5月)	漢字の書 ○漢字の成立と変遷 ○楷書の特徴 表現を比べよう 「九成宮醜泉銘」「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」「自書告身」 ○唐の四大家	・漢字の成立と変遷について理解する。 ・楷書の特徴について知識と理解を深め、それぞれの特徴をとらえる。 ・楷書の用筆・運筆・結構法・字形の取り方について理解し作品を仕上げる。	第2回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	・書体の変遷についての学習 ・漢字の楷書についての実技	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント 実技	
	11月 (6月)	漢字の書 ○行書の特徴 「行書とは」「行書の特徴」 「蘭亭序」「争坐位文稿」 「風信帖」 三筆から三蹟へ	・行書の特徴を理解する。 ・字形の取り方・用筆等楷書と比較してより鮮明に特徴をとらえる。 ・行書の用筆・運筆・字形の取り方を理解し、「表現の特徴」を手掛かりに作品を仕上げる。	第3回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	・楷書の基本を振り返りながら行書の特徴についての学習 ・漢字の行書についての実技	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント 実技	
	11月 (6月)	漢字の書 ○草書の特徴 「真草千字文」 ○隸書の特徴 「曹全碑」 ○篆書の特徴 「篆書の特徴」	・それぞれの書体が成立する過程や、特徴について理解する。	第4回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	それぞれの書体の特徴・用筆・用筆等をつかむ	0.5	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
		漢字の書 ○創作 ～古典を生かそう～ ○鑑賞 ～書的美や風趣を味わおう～	・古典の特徴や技法を生かして創作し、相互評価をする。 ・近現代の作品を鑑賞する。		11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	11月 (6月)	仮名の書 ○仮名の成立 ○仮名を書く準備 ○平仮名の単体 ○変体仮名 ○連綿	・仮名の成立を理解し、単体・連綿の表現の違いに注目する。用筆・運筆の技法も合わせて習得する。	第5回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	仮名の書についての学習	0.5	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
	12月 (7月)	漢字仮名交じりの書 ○表現を比べよう  篆刻と落款  生活に広げる ○便箋 ○封筒 ○履歴書の書き方	・日常生活に近い漢字・仮名交じりの書の線質・運筆・字形・文字の大小について意図に基づく表現を工夫する。 ・便箋や封筒の宛名、履歴書など改まった場面で使われる書式について理解し、場面に応じて書く。	第6回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	漢字・仮名交じりの書についての学習	0.5	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
			単位認定試験(実技)						
						面接指導(単位時間) 合計			4

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーション I a	2	CI 701	東京書籍	All Aboard! English Communication I

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域(以下この節において「五つの領域」という。)別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 聞くこと                  ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。                  イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと                  ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと[やり取り]                  ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと[発表]                  ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと                  ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	4領域のバランスのとれた英語力の向上を図るため、その土台となる①文法事項の基礎的理解②語彙の修得、さらにその運用能力を高めるため自分自身の日常生活で起きる出来事や思いや考えを英語で伝える意欲を培う指導に努める。
<b>評価の観点</b>	<p>【知識・技能】 各々の章において修得すべき文法・語彙表現や基礎(応用)単語が身に付き、十二分に使いこなすことが可能か。</p> <p>【思考・判断・表現】 英語特有の表現の仕方を理解し、日本語に捕らわれず思考を柔軟に変えることができるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 課題だけの高得点を狙わず、試験でも力を発揮できるように努力しているか。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導(レポート)		面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間		
	4月 (10月)	Warm-Up 1-3 【言語材料】 Pre-Lesson1-2 Be動詞 一般動詞 【言語活動】自己紹介	・英語学習において教室で使う表現や疑問詞 ・自己紹介でBe動詞と一般動詞の違いを知り、否定文・疑問文・応答文が運用できる。	第1回	4月 (10月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書	
	5月 (11月)	Lesson1 (Breakfast around the World) 【言語材料】動詞の過去形 【言語材料】好きな食べ物について述べる。	・世界の朝食を表現する。 ・Be動詞と一般動詞の過去形の使い分けができる。	第2回	5月 (11月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書	

前期  
(後期)

5月 (11月)	Lesson2 (Australia's Cute Quokkas) 【言語材料】現在進行形 過去進行形 (文法のまとめ) 【言語活動】好きな動物について述べる。	・その国特有の動物とその保護について表現しようとする。 ・進行形の表現が運用できる。	第3回	5月 (11月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (11月)	Lesson3 (A Train Driver in Sanriku) 【言語材料】助動詞(can, will) (文法のまとめ2) should may must 【言語活動】ある場所への行き方とそこで できることを述べる。	・職業としての運転手と 東北大震災後の復興 について学ぶ ・助動詞と助動詞に似 た働きをする多様な表 現を学ぶ。	第4回	6月 (11月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
6月 (12月)	Lesson4 (A Miracle Mirror) 【言語材料】to+動詞の原形 不定詞 Extra Target 接続詞 【言語活動】行ってみたい場所について述 べる。	・行ってみたい場所に ついて情報や気持ちを 英語で発表する。 ・名詞、形容詞、副詞 の役割を果たす不定詞 を理解し慣れる。	第5回	6月 (12月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
	Lesson5 (Learning from the Sea) 【言語材料】動名詞 【言語活動】将来の夢について述べる。	・愛媛県の高校生はク ラブ活動を通して会話 力をつけ将来の仕事 を語る。 ・動名詞を用いて将来 の夢や楽しんだこと を語る。	第6回	6月 (12月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
7月 (12月)	Reading 1 (Short Stories In English) 【言語材料】それぞれの場面のユーモアを 理解する 【言語活動】登場人物の気持ちを考え音 読する。	・ショートストーリーを 読み、場面や心情を 読み取って、英語の ユーモアが理解でき る。		7月 (12月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
9月 (1月)	教科書lesson1～5より ◇Be動詞と一般動詞の疑問文・否定文 ◇過去形・助動詞 ◇進行形、不定詞、動名詞	(教師の到達目標) ・好ましい学習規律の 中で生徒たちが楽し い雰囲気のもと、意 欲的に学習できたか。	第1～6回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	各Lessonにお ける重要課題 を理解し応 用をつけ英 文の読解が できる。	4	行動観察 課題プリント レポート 視聴報告書
	単位認定試験						考查

面接指導(単位時間) 合計 4

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーション I b	2	CI 701	東京書籍	All Aboard! English Communication I

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域(以下この節において「五つの領域」という。)別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 聞くこと                  ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。                  イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと                  ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと[やり取り]                  ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと[発表]                  ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと                  ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。                  イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	4領域のバランスのとれた英語力の向上を図るため、その土台となる①文法事項の基礎的理解②語彙の修得、さらにその運用能力を高めるため自分自身の日常生活で起きる出来事や思いや考えを英語で伝える意欲を培う指導に努める。
<b>評価の観点</b>	<p>【知識・技能】各章において歴史や地球環境、文学作品など幅広い視野・知識を取り入れることができ、単語も多様な分野に渡り修得できているか。</p> <p>【思考・判断・表現】課題を進めると共に文法や語彙を理解し、本文の読解力につなげることができるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】最終章に進むほど長文になり単語数が増えるため、集中力が問われる。授業中の態度にも重きをおいて判断する。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導(レポート)		面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間		
	4月 (10月)	Lesson 6 (The Funny Pictures from the Edo Period) 【言語材料】受け身<be動詞+過去分詞> 「言語活動」好きな絵を英語で述べる	江戸時代の浮世絵と現代のマンガの関連を学び、好きな絵の紹介と理由を受け身形を用いて情報や考え、気持ちを話して伝えあう技能を身に付ける。	第7回	4月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	5月 (11月)	Lesson 7 (A Diary of Hope) 【言語材料】比較表現 【言語活動】関心ある人物について英語で説明することができる	・比較表現を用いてアンネフランクや自分で関心のある人物について学んだことを伝え合う。 ・比較級最上級を理解し慣れる。	第8回	5月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	

前期 (後期)	5月 (11月)	Lesson8 (A Door to a New Life) 【言語材料】 現在完了形<have/has+過去分詞> 【言語活動】人の生活を豊かにするロボット について英語で提案することができる Communication 乗換案内	現在完了形も用いた文 の形・意味用法を理解 し、ロボットカフェにつ いて学んだりロボットに ついて自分で調べたこ とを伝える。	第9回	5月 (11月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	Lesson9 (Fighting Plastic Pollution) 【言語材料】 名詞を後ろから説明する分詞 【言語活動】 環境を守るためにできることについて、英 語で表現できる	「名詞を後ろから説明 する分詞」が用いられ た文を理解し、プラス チックごみの問題を調 べ、自分たちでできる ことを伝え合う。	第10回	6月 (11月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (12月)	Lesson10 (Pigs from across the Sea) 【言語材料】関係代名詞:who,which 【言語活動】海外の文化や社会に対する 理解を深める活動について、英語で述べ ることができる。	関係代名詞who,which を用いた文の形・意味・ 用法を理解している。 第二次世界大戦ごの 沖縄へのハワイの援助 や現代までの交流を学 ぶ。世界の文化や社会 について伝え合う。	第11回	6月 (12月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
	7月 (12月)	Reading 2(The Wizard of Oz) 【言語材料】家ごと大竜巻に飛ばされドロ シーと愛犬トトが家に戻るまでの冒険 【言語活動】ドロシーの気持ちを考えなが ら音読する (Extra Target)	・ストーリーの内容を理 解し、場面や心情を読 み取ることができる。 ・仮定法過去を理解す る。 <If+過去形の文、I would...>	第12回	7月 (12月)	メディア学習 により免除	0	レポート 視聴報告書
	1月 (9月)	教科書lesson7～10より ◇受動態 ◇現在完了形 ◇比較表現 ◇名詞を後ろから説明する分詞 ◇関係代名詞 ◇仮定法	(教師の到達目標) ・好ましい学習規律の 中で生徒たちが楽しい 雰囲気のもと、意欲的 に学習できたか。	第7～12回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	各Lessonにお ける重要課題 を理解し応用 力をつけ英文 の読解ができ る。	4	行動観察 課題プリント レポート 視聴報告書
		単位認定試験						
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語科	英語コミュニケーションⅡa	2	CⅡ701	東京書籍	All Aboard! English Communication Ⅱ

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする資質・能力を育成する。 ・「主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養う ・複数領域を結び付けた統合的な言語活動の充実を図る。 ・状況に応じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりできるようにする。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 「英語の特徴やきまりに関する事項」を理解し、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けているか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じて捉えているか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしているか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法	
				回	時期	内容	時間		
前期 (後期)	4月 (10月)	Pre-Lesson My Plans for This Year Lesson 1 A Colorful Island	・海外で行ってみたい場所について、英語で述べることができる。 ・関係代名詞: what	第1回	4月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	5月 (10月)	Let's Listen 1 ホテルにチェックイン Communication 1 病院で診察 Lesson 2 With the Beatles Word Box 1 Feelings and Emotions	・世代を超えて人気のある人物について英語で述べるができる。 ・感覚や感情を表す語句を使って英文を作成することができる。 ・比較表現: more, the most	第2回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	5月 (10月)	Lesson 3 Wild Men 文法のまとめ 1 (関係代名詞/比較表現/itの用法)	・「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 ・身近な行事について英語で紹介することができる。 ・形式主語 itの用法	第3回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	6月 (11月)	Lesson 4 Little Hero Let's Listen 2 世界自然遺産 Extra Target 1 ずっと...し続けています	・ハチドリ物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 ・間接疑問文	第4回	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	6月 (11月)	Word Box 2 A Day in English : Part 1 Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習し、日本の伝統文化について、英語で説明することができる。 ・to不定詞を含む表現	第5回	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	7月 (12月)	Word Box 3 The Body and Clothes Reading 1 Mujina 文法のまとめ 2 (間接疑問文/to不定詞を含む表現/動詞の形と「時」の関係)	・身体の各部分や衣服などを表す語句を用いて英語で対話する。 ・怪談を読み、情景や登場人物の心情を読み取る。	第6回	7月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	9月 (1月)	単位認定試験						0	考査
	面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語科	英語コミュニケーションⅡb	2	CⅡ701	東京書籍	All Aboard! English Communication Ⅱ

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする資質・能力を育成する。・「主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養う ・複数領域を結び付けた統合的な言語活動の充実を図る。・状況に応じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりできるようにする。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 「英語の特徴やきまりに関する事項」を理解し、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けているか。 <b>【思考・判断・表現】</b> 必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じて捉えているか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしているか。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
後期 (前期)	10月 (4月)	Lesson 6 Seeds for Future Generations Word Box 4 Various Jobs	・伝統野菜についての発表を通して、伝統の継続について考える。 ・地元で有名な場所やものについて、英語で説明することができる。 ・if節	第7回	10月 (4月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	10月 (5月)	Lesson7 Over the Wall Communication 2 入国審査 Getting the Necessary Information	・世界の人々と交流する方法について、英語で述べることができる。 ・関係副詞: where, when ・入国審査で使われる表現を学ぶ。	第8回	10月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	10月 (5月)	Lesson 8 Inspiration from Nature 文法のまとめ 3 (動詞の目的語になるif節/関係副詞/知覚動詞)	・生物模倣からのデザインをヒントに開発された製品について学習する。 ・自然界のデザインをヒントにした製品について英語で発表できる。 ・知覚動詞	第9回	10月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月 (6月)	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate エッセイライティング Extra Target 2 ○○ならいいのに…	・カカオ農園の実態と児童労働問題について学習する ・社会的な問題について、英語で意見を述べるができる。 ・使役動詞	第10回	11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月 (6月)	Lesson 10 Fighting Angel 文法のまとめ 4 (使役動詞/分詞構文)	・ナイチンゲールの生涯について学習する。 ・人を助ける職業について、英語で説明することができる。 ・分詞構文	第11回	11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	12月 (7月)	Reading 2 Bear's Pie Word Box 5 A Day in English :Part 2	・登場人物の気持ちを考えながら朗読劇を演じて発表する。 ・平日の生活でよく使われる語句や表現を学習する。	第12回	12月 (7月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	1月 (9月)	単位認定試験						0
面接指導(単位時間) 合計							4	



# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーションⅢa	2	CⅢ701	東京書籍	All Aboard! English communication Ⅲ

<p>目標 【学習指導要領】</p>	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、5つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 聞くこと                      ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。                      イ 社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと                      ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量において、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと[やりとり]                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと[発表]                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段階から成る文章で論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて情報や考え、気持ちなどを複数の段階から成る文章で論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p>
<p>目標に向けての具体的取り組み 【指導上の留意点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コミュニケーションⅡからさらに700～950語の新語を加え、不定詞、現在完了形、使役動詞、受け身、関係代名詞、など文法事項の中から5つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを取り扱う。</li> <li>・日常的にはニュース、新聞記事、物語、学校内外の活動、地域社会などを題材として、社会的にはニュース、論文文、記録文などを通して、内容・情報を読みとり4技能(5領域)をバランスよく適宜に取り扱い、学習意欲を高めて行く。</li> </ul>
<p>評価の観点</p>	<p>【知識・技能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手を配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	Lesson1 Gifts to Barcelona [題材内容]ガウディが設計した建築物の概念や特徴と、バルセロナにおけるその意味について学習する。 [言語材料]to不定詞/動名詞 [言語活動]建築物について、英語で説明できる。	建築物について、英語で紹介することができる。	第1回	スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	建物などを通して海外の都市に関心を持ち、読解力表現力を付ける。	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	5月 (10月)	Lesson2 Akkamui [題材内容]北海道の野生動物観察ツアーガイドの説明を通して、エゾモモンガやアイヌの人々について学習する [言語材料]現在完了形 [言語活動]生き物の特徴について英語で説明できる。	生き物の特徴について、英語で説明することができる。	第2回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	Lesson3 Your True Colors [題材内容]衣服の働きと自己表現としてのファッションについて学習する。 [言語材料]使役動詞 [言語活動]ファッションについて英語でインタビューできる。	ファッションについて、英語でインタビューをすることができる。	第3回	5月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	自己表現としてファッションを捉え、読解力と表現力を付ける。	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	Lesson4 Our Future Food? [題材内容]コオロギを使用する昆虫食についての対話を通して食糧問題について学習する。 [言語材料]受け身 [言語活動]食糧問題について、英語でミニディベートをすることができる。	食糧問題について、英語でミニディベートをすることができる。	第4回	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (12月)	Lesson5 Madagascar [題材内容]マダガスカルの人々の生活を通して、地球環境や生態系について考える。 [言語材料]関係代名詞 [言語活動]地域の自然について、英語でプレゼンテーションをすることができる	地域の自然について、英語でプレゼンテーションをすることができる。	第5回	スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	海外の自然環境や生活についての読解力と表現力を付ける。	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	7月 (12月)	Reading 1 The Fun They Had [題材内容]未来の機械化された学校と生徒の日常生活についての物語を読み、各場面の状況と登場人物の心情を読み取る。 [言語活動]各場面の状況や登場人物の心情を考えたり想像したりしながら、やや複雑な構造の物語を音読する。	内容を理解し、各場面での登場人物の心情をとらえ、音読ができる。	第6回	7月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 6月～7月 (10月～12月)	未来の学校生活を登場人物の心情を理解しながら読み解く。	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
9月 (1月)	単位認定試験						0	考査
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーションⅢb	2	CⅢ701	東京書籍	All Aboard! English communication Ⅲ

<p>目標 【学習指導要領】</p>	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、5つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 聞くこと                      ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。                      イ 社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと                      ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量において、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと[やりとり]                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと[発表]                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと                      ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段階から成る文章で論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。                      イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて情報や考え、気持ちなどを複数の段階から成る文章で論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p>
<p>目標に向けての具体的な取り組み 【指導上の留意点】</p>	<p>・英語コミュニケーションⅡから700～950語の新語を加え、不定詞、関係代名詞、関係副詞、接続詞、助動詞、前置詞、動詞の時制及び相など、仮定法など文法事項の中から5つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを取り扱う。</p> <p>・日常的にはニュース、新聞記事、物語、学校内外の活動、地域社会などを題材として、社会的にはニュース、論証文、記録文などを通して、内容・情報を読みとり4技能(5領域)をバランスよく適宜に取り扱い、学習意欲を高めて行く。</p>
<p>評価の観点</p>	<p>【知識・技能】・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手を配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法	
				回	時期	内容	時間		
後期(前期)	10月 (4月)	Lesson6 The Mystery of the Teracotta Warriors. [題材内容]古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑について学習する。 [言語材料]関係代名詞(who, which)の非制限用法 [言語活動]訪れてみたい史跡について、英語でまとまりのある文章を書くことができる。	訪れてみたい史跡について、英語でまとまりのある文章を書くことができる。	第7回	10月 (4月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
					10月 (4月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
		Lesson7 Green Challenges [題材内容]地球温暖化と再生可能エネルギーについての発表を通して、エネルギー問題とその解決策について学習する。 [言語材料]比較表現 [言語活動]再生可能エネルギーについて、国や地域を比較して英語でプレゼンテーションができる。	再生可能エネルギーについて、国や地域を比較して英語でプレゼンテーションをすることができる。	第8回	10月 (4月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	11月 (5月)	Lesson8 Witnesses of War [題材内容]原爆投下により被爆した広島路面電車とその運転手だった女子生徒の経験を通して平和の大切さについて考える。 [言語材料]名詞を後ろから説明する分詞 [言語活動]経験したことや考えたことについて、英語でまとまりのある文章を書くことができる。	経験したことや考えたことについて、英語でまとまりのある文章で書くことができる。	第9回	11月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
		Lesson9 The wonders of Lighting [題材内容]海外の高校生に向けたオンラインでの発表を通して、雷の発生のしくみや避難方法、地球温暖化との関係などについて学習する。 [言語材料]仮定法過去 [言語活動]電気の有効活用について、英語でミニディベートをすることができる。	電気の有効活用について、英語でミニディベートをすることができる。	第10回	11月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	12月 (6月)	Lesson10 Kathering's Long Journey [題材内容]人種差別の壁を超えて、アメリカの宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者、キャサリン・ジョンソンと差別の問題について学習する。 [言語材料]関係代名詞whose [言語活動]社会に影響を与えた人物について英語で、エッセイを書くことができる。	社会に影響を与えた人物について、英語でエッセイを書くことができる。	第11回	12月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	12月 (7月)	Reading 2 Table for Two [題材内容]ディケンズの本に導かれたような、若い男女の2度の巡り合いの物語を読んで、各場面の状況や登場人物の心情を読み取る。 [言語活動]各場面の状況や登場人物の心情を考えたり想像したりしながら音読する。	内容を理解し、各場面での登場人物の心情をとらえ、音読ができる。	第12回	12月 (7月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書	
	1月 (9月)	教科書Lesson6~9, Reading2より ◇関係代名詞◇比較表現 ◇名詞を後ろから説明する分詞 ◇仮定法過去 上記文法の課題を復習しながら、語彙を増やし5技能を高める。	多分野に於いて社会的関心を持ち、語彙を増やし英語の表現力をつけ、国際的な感覚を身に付ける。	第7回~12回	スクーリング 10月~12月 (6月~7月)	各Lessonの課題を認識し、自分の考えを表現できる。	4	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント	
	1月 (9月)	単位認定試験						4	考查
	面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	論理・表現 I	2	論 I 701	東京書籍	NEW FAVORITE English Logic and Expression I

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域(以下この節において「三つの領域」という。)別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。(1)話すこと[やり取り]ア日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。イ日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。(2)話すこと[発表]ア日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。イ日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。(3)書くことア日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。イ日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	<p>ロールプレイやペアワークの活動を通じて、基本的な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどをやり取りする練習をする。</p> <p>基本的な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどを論理的に構成し、話す練習をする。クラス内での発表を通じて、自信を持って意見や情報を伝える能力を養う。</p> <p>基本的な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどを論理的に構成し、文章を書く練習をする。書く活動を通じて、文章表現力を向上させる。</p>
<b>評価の観点</b>	<p><b>【知識・技能】</b>[知識]題材内容の表現の形・意味・用法を理解している。                  [技能]学んだ知識を用いて、題材内容の表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b>場面や相手の状況を理解し適切な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを表現している。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて題材内容を繰り返し、活動に取り組もうとしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
	6月 (11月)	Unit 1 Lesson 1, Lesson 2, lesson 3	褒める、勧める、断る、提案する、依頼する、説明する、紹介する、注意を引く	第1回	スクーリング 6~7月 (10~12月)	褒める、勧める、断る、提案する、依頼する、説明する、紹介する、注意を引く表現について取り組む	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント

前期  
(後期)

5月 (10月)	Unit 1 Lesson 4, Lesson 5, Lesson 6	体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをする、描写する、相づちを打つ、希望を述べる、理由を述べる	第2回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
5月 (10月)	Unit 1 Lesson 7, Lesson 8, Lesson 9	誘う、誘いを受ける、誘いを断る、状況を説明する、申し出る、助言・提案する、感謝する、要約し紹介する、感想や批評を述べる	第3回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
				スクーリング 6～7月 (10～12月)	誘う、誘いを受ける、誘いを断る、状況を説明する、申し出る、助言・提案する、感謝する、要約し紹介する、感想や批評を述べる表現について取り組む	1	行動観察 課題プリント
6月 (11月)	Unit 1 Lesson 10, Lesson 11, Lesson 12	謝る、許す、励ます、共感を述べる、残念な気持ちを述べる、解決策を提案する、要望や主張を述べる、理由を述べる	第4回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	謝る、許す、励ます、共感を述べる、残念な気持ちを述べる、解決策を提案する、要望や主張を述べる、理由を述べる表現について取り組む	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
6月 (11月)	Unit 2 Lesson 1, Lesson 2, Lesson 3, Lesson 4	理由を述べる、例を挙げる、反駁する、引用する、描写する、経験からアドバイスをする、順序だてて説明する、聞き手の知識に合わせて説明する	第5回	6月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
				スクーリング 6～7月 (10～12月)	理由を述べる、例を挙げる、反駁する、引用する、描写する、経験からアドバイスをする、順序だてて説明する、聞き手の知識に合わせて説明する表現について取り組む	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
7月 (12月)	Unit 2 Lesson 5, Lesson 6, Lesson 7, Lesson 8	事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明する、利点と欠点を述べる、話題を発展させる、話題を変える、主張を説明する、要約する、引用する、条件を出して意見を述べる、説得する	第6回	7月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
9月 (1月)	単位認定試験						考査

面接指導(単位時間) 合計

4

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	論理・表現Ⅱ	2	論Ⅱ701	東京書籍	NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅱ

<p>目標 【学習指導要領】</p>	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。</p> <p>(1)話すこと[やり取り]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な問題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(2)話すこと[発表]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報を考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3)書くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>
<p>目標に向けての具体的取り組み 【指導上の留意点】</p>	<p>デモンストレーションやモデルとなる文章例などを豊富に提示し、生徒がそれらを活用しながら話すことや書くことによる力を伸ばすことができるようにする。</p> <p>語句やその意味を知識としてインプットするだけでなく、何回も音読したり、例文を作ってみたりすることで、さまざまな場面で自分の考えや気持ちを自分の言葉でアウトプットできるようにする。</p>
<p>評価の観点</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>それぞれの状況に合わせた表現の形・意味・用法を理解しているか。</p> <p>学んだ知識を用いて、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけているか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを自分の言葉で詳しく表現しようとしているか。</p>

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
後期 (前期)	10月 (4月)	Unit1 Lesson1 友達に報告する Lesson2 日本での初登校 Lesson3 経験についてのスピーチ Lesson4 ファンレター	日常使用する英語表現(訂正する/心配する/感謝する/驚く/繰り返す/言い換える/注意を引く/同意を求める/望む/褒める)を身に付ける。	第1回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	単語の意味、日常よく使うフレーズ、並び替え問題についての講義、練習	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	10 (5月)	Unit1 Lesson5 イベントに誘う Lesson6 図書館で資料さがし Lesson7 翻訳についてのスピーチ Lesson8 通信販売で返品依頼	日常使用する英語表現(誘う/説明する/聞き直す/依頼する/要約する/言い換える/困ったことを伝える/控えめに依頼する)を身に付ける。	第2回	10月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	11月 (5月)	Unit1 Lesson9 タクシーに乗る Lesson10 友達とディスカッション Lesson11 比較結果のプレゼンテーション Lesson12 就きたい職業	日常使用する英語表現(依頼する/提案する/仮定する/反対する/報告する/比較する/説明する/理由を述べる)を身に付ける。	第3回	11月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	単語/熟語の意味や使い方、仮定法を使った表現についての講義、練習	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月 (6月)	Unit2 Lesson1 クラスでディベート① Lesson2 クラスでディベート② Lesson3 クラスでディベート③	日常使用する英語表現(推論する/賛成・反対する/主張する/説得する)を身に付ける。	第4回	11月 (6月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	12月 (6月)	Unit2 Lesson4 調査結果のプレゼンテーション Lesson5 社会問題についてのスピーチ	日常使用する英語表現(報告する/望む/説明する/主張する/提案する)を身に付ける。	第5回	スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	単語の意味、日常よく使うフレーズ、並び替え問題についての講義、練習	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	12月 (7月)	Unit2 Lesson6 仮定して推論する Lesson7 仮定して説明する Lesson8 読み手を説得する	日常使用する英語表現(仮定する/推論する/比較する/類似点と相違点を説明する/主張する/説得する)を身に付ける。	第6回	12月 (7月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
					スクーリング 10月～12月 (6月～7月)	単語の意味、日常よく使うフレーズ、長文読解の練習	1	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
1月 (9月)	単位認定試験						0	考査
					面接指導(単位時間) 合計			4



# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
家庭	家庭総合a	2	家総701	東京書籍	家庭総合 自立・共生・創造

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に実現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
<b>目標に向けての具体的な取り組み</b> <b>【指導上の留意点】</b>	・スクーリングでは実習を中心とした指導を行い、裁縫技術が学習でき、かつ生徒の興味、関心、制作意欲の湧くような日常の用途に優れた題材を選ぶ。 ・身近な事例を取り上げ、親の役割や子育てを支援する環境や福祉、高齢者福祉の基本的な理念や地域及び社会の果たす役割に重点を置く。
<b>評価の観点</b>	<b>【知識・技能】</b> 各分野の生活に関する基礎的・な技術を理解し、身につけ、生活の中で生かすことができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> 生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のために思考を深め、自分の考えをまとめ判断し、工夫したり創造したりすることができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 各分野に関心を持ち、その充実向上を目指し、意欲的に取り組むとともに、自立した生活に向けて、実践的な態度を身につけようとする。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	生涯を見通す ・人生を展望する ・目標を持って生きる	自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	第1回	4月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	人生をつくる ・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会	生涯を見通して、自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	第2回				レポート 視聴報告書
	5月 (10月)	子どもと共に育つ ・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・子どもと関わる 子どもとの触れ合いから学ぶ これからの保育環境	子どもの育つ力を理解するとともに、親になったとき、あるいは地域や社会の一員として、子どもとどう関わり、育んでいくかを考える。	第3回	5月 (10月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	6月 (11月)	超高齢社会を共に生きる ・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢者の心身の特徴 ・高齢者の自立を支える ・これからの超高齢社会	超高齢社会を生きる者として、充実した毎を送ることができる社会のあり方について考える。	第4回	スクーリング 6～7月 (10～12月)	課題製作を通して基礎的な縫い方を身に付け、今まで気づかなかった布製品の側面について知る。身近なエコバーサルデザインについて考える。	2	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (11月)	共に生き、共に支える ・私たちの生活と福祉 ・社会保障の考え方 ・共に生きる	誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	第5回	7月 (12月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	7月 (12月)	食生活をつくる ・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食品の選択と安全	よりよい食習慣を身に付けるための知識を学び、生活の質を高める視点と生活習慣病予防の視点を持つ。	第6回				レポート 視聴報告書
	9月 (1月)	単位認定試験						考査
面接指導(単位時間) 合計							2	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
家庭	家庭総合b	2	家総701	東京書籍	家庭総合 自立・共生・創造
<b>目標</b> 【学習指導要領】		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に実現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			
<b>目標に向けての具体的取り組み</b> 【指導上の留意点】		・スクーリングでは実習を中心とした指導を行い、裁縫技術が学習でき、かつ生徒の興味、関心、制作意欲の湧くような日常の用途に優れた題材を選ぶ。 ・衣生活・食生活・住生活について科学的に理解させ、各の文化について関心を持たせ、主体的な営みができるようにする。 ・生活における経済の計画について身近な事例を取り上げることで、主体的に問題に取り組む姿勢を養う。			
<b>評価の観点</b>		<b>【知識・技能】</b> 各分野の生活に関する基礎的・な技術を理解し、身につけ、生活の中で生かすことができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> 生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のために思考を深め、自分の考えをまとめ判断し、工夫したり創造したりすることができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 各分野に関心を持ち、その充実向上を目指し、意欲的に取り組むとともに、自立した生活に向けて、実践的な態度を身につけようとする。			

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
後期 (前期)	10月 (4月)	食生活をつくる ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活の文化と知恵 ・これからの食生活	よりよい食習慣を身に付けるための知識と技術を学び、生活の質を高める視点と、食料自給率や資源環境の視点から、食生活について考える。	第7回	10月 (5月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	10月 (5月)	衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する	健康で快適に装うために、どのように被服計画を立てていけばよいかを考え、身に付ける。	第8回				レポート 視聴報告書
	10月 (5月)	衣生活をつくる ・被服を作る ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活	目的に合った被服を製作するために、被服の構成を理解する。	第9回	スクーリング 10～12月 (6～7月)	課題製作を通して基礎的な縫い方を身に付け、今まで気づかなかった布製品の側面について知る。作成計画の立て方を考え、身に付ける。	2	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	10月 (5月)	住生活をつくる ・住生活の変遷と住居の機能 ・安全で快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活	安全で快適な住居を整え、地域の住文化に溶け込み、街並みや周囲の自然環境と調和した持続可能な住生活を営むために必要な知識を身に付ける。	第10回				レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	11月 (6月)	経済生活を営む ・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払いのルールと方法 ・消費者の権利と責任 ・生涯の経済生活を見通す ・家計をマネジメントする ・これからの経済生活	自立した消費者として適切に意思決定を行い、消費生活をマネジメントする力を身に付ける。	第11回				11月 (6月)
	12月 (7月)	持続可能な生活を営む ・持続可能な社会を目指して ・一人一人の力で社会を動かす ・これからの生活を創造する ・生活をデザインする	地球全体で起こっているさまざまな問題の課題について学び、生活者として何ができるか考え、取り組み、持続可能なライフスタイルを実現する。	第12回	12月 (7月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	1月 (9月)	単位認定試験						
面接指導(単位時間) 合計							2	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
情報	情報 I	2	情 I 701	東京書籍	新編情報 I

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
目標に向けての具体的な取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	多様なコミュニケーションの実現、情報技術の発展と社会の変化についての理解を深める。問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。
評価の観点	<b>【知識・技能】</b> 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。 <b>【思考・判断・表現】</b> 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	4月 (10月)	1章 情報で問題を解決する	情報メディアの特性を理解する。問題解決の手順を理解する。著作権や産業財産権についての理解を深める。	第1回	5月 (11月)	メディア学習により免除	0	レポート 視聴報告書
	5月 (11月)	2章 情報を伝える	ネットコミュニケーションについて、理解を深める。アナログとデジタルの特徴を理解する。	第2回				
	5月 (11月)	3章 コンピュータを活用する	コンピュータの五大装置について確認する。プログラムとシミュレーションの作成手順について確認する。	第3回				
	6月 (11月)	4章 データを活用する	インターネットのしくみについて理解し、情報セキュリティの特性を確認する。	第4回	スクリーン 6月～7月 (10月～12月)	第1回から第6回までのレポートの重要箇所確認	2	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
	6月 (12月)	5章 活動して提案する 巻末資料(色彩の基礎知識、Webページの構造など)	ワープロソフト・表計算ソフトなど、様々なソフトウェアの活用方法を確認する。プログラミングについての理解を深める。	第5回				
	7月 (12月)	巻末資料(2進法の計算、プログラミング手帳など) 1章～5章の振り返り	1章からの学習を踏まえ、様々な問題について手順を確認し、理解を深める。	第6回				
	9月 (1月)	単位認定試験						

面接指導(単位時間) 合計 2

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
体験学習	ボランティア	2			

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	学校周辺及び相生市内の観光名所の清掃活動など、やさしく美しいまちづくりへの参加や、福祉とボランティアに関する体験活動を通して、社会の一員であることの自覚を身につけるとともに、喜びや思いやりの心を育てる。
目標に向けての具体的取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	・福祉に関するさまざまな体験活動を通して、ボランティア活動への意欲・関心を高めるとともに、高齢者や障がい者への正しい理解を深め、自ら行動できる豊かな心を育む。 ・外部講師の方やボランティア職員の方の指示に従い、一人一人が有意義な体験活動となるよう心がける。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	8月 (12月)	相生市社会福祉協議会の職員の方による講義を受講する。講義では、高齢者理解、主に認知症についての正しい知識を得るとともに、認知症患者への接し方などを、視聴教材やグループワークを取り入れながら理解する。  ※実施時期により、講義内容は変更となる可能性があります。	講義を通して、高齢者、認知症患者に対する知識、理解を深めると同時に、地域の社会福祉協議会の活動内容を知り、ボランティアをより身近なものとして考えさせる。	第1回	8月 (12月)	福祉に関する講義を受講し、ボランティアとは何か、一人一人が自らの考えを深められるような機会とする。	1.5	レポート 行動観察
		点字体験 相生市ボランティアセンター登録グループ「相生点灯会」の方々にご協力いただき、点字のしくみや読み方、打ち方を学ぶ。	福祉学習の一環として、点字のしくみや打ち方、読み方を学び、視覚障がい者についての理解を深める。	第2回		また、体験活動を通して、身体障がい者を正しく理解し、人を思いやる心を育てる。  最後に、活動の振り返りとしてレポートを作成する。	1.5	
		まとめ・レポート作成	講義と体験活動を通して学んだことや感想をレポートにまとめ、活動を振り返る。	第3回		1		

面接指導(単位時間) 合計 4

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
体験学習	漁業	2	—	—	—

<p style="text-align: center;">目標 【学習指導要領】</p>	地元特産物である牡蛎の養殖や相生湾での海釣りなど漁業体験を通して、地域住民との交流により絆を深める中で、思いやりやリーダーシップ、社会的責任感等、人間愛溢れる人材育成を図る。
<p style="text-align: center;">目標に向けての具体的取り組み 【指導上の留意点】</p>	海岸、海上での活動が中心となる為、事前説明での注意喚起、安全の自己管理を徹底し、また救命道具等の安全対策を行う。講義や体験を通じ、漁業や食などの日本文化、それらを取り巻く現状に関心を持たせる。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
前期 (後期)	7月 (11月)	体験内容の事前説明、漁業の概論について講義。	日本を取り巻く漁業の現状を理解する。	第1回	7月 (11月)	相生の地に根ざした文化産業である漁業を通じ、今日の日本の産業の問題を知る。講義や体験から学んだことをレポートに報告する。また感想を生徒同士で共有する	1	レポート 行動観察
		漁業体験:釣りの経験のある生徒をリーダーとして判を構成する。事前講義で学んだ内容を、関係者や教職員、生徒同士のコミュニケーションと通しながら体験する。	魚を釣る・漁をすることの文化的・社会的意義、命の大切さ、生きる事の本質を理解する。	第2回			1	
		体験を通して得た感想や漁業に関する事柄についてまとめる。	体験を通じて、命の大切さを理解する。	第3回			1	
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 2024年度 通信教育実施計画書

相生学院高等学校

教科	科目	単位数	教科書番号	出版社	教科書名
体験学習	農業	2			

<b>目標</b> <b>【学習指導要領】</b>	相生市内のブドウ園での体験やそこで働く人の講話などを通して、農作業に対する正しい理解と働く事の意義について考える。また、地域住民との交流を深めるとともに、思いやりやリーダーシップ、社会的責任感等、人間愛あふれる人材育成を図る。
目標に向けての具体的な取り組み <b>【指導上の留意点】</b>	普段体験することがない農作業を通して、農業の社会的な役割について理解させ、農業に関心を持たせる。また、実際の作業を通して、作物の特性を知り、科学的な見方と実践力を養うとともに自然に対する畏敬の念を養う。

学期	実施時期	内容	到達目標	添削指導 (レポート)	面接指導(単位時間)			評価方法
				回	時期	内容	時間	
全 期		下記Ⅰ,Ⅱ,Ⅲよりいずれかを選択 ・前期はⅠを選択 ・後期はⅡ,Ⅲより選択			スクーリング 6月			4 行動観察 課題プリント
	6月	Ⅰ 農産物(ブドウ)の栽培環境を学ぶ ブドウ園(片山美果園)での実習 ・摘粒後のブドウの掃除 ・落ち葉掃除 ・ブドウの袋かけ ・ブドウ栽培について講話	ブドウの特質を知り、収穫までの過程とその時期における留意点について理解を深める。	第1回 第2回 第3回				
	11月	Ⅱ 農園活動 校内の農園整備 ・作物の植え付け ・除草作業 ・作物栽培 ・講話	校内の環境に着目し、農作業を通して農業の基礎を学び、ビデオ鑑賞を通して農業への興味や関心を高める。	第1回 第2回 第3回	スクーリング 12月		4 行動観察 課題プリント	
	12月	Ⅲ 農産物(ブドウ)の栽培環境を学ぶ ブドウ園(片山美果園)での実習 ・落ち葉掃除 ・剪定後の枝の片づけ ・ブドウ栽培について講話	ブドウの特質を知り、収穫までの過程とその時期における留意点について理解を深める	第1回 第2回 第3回				
面接指導(単位時間) 合計							4	

# 相生学院高等学校「総合的な探究の時間」通信教育実施計画書

諸法規等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法</li> <li>・教育基本法</li> <li>・学校教育法</li> <li>・学校関係諸法規</li> <li>・学習指導要領</li> </ul>

生徒の努力目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりひとりがよりよい生き方を考え、主体的に進路選択ができるようになる。</li> <li>・広い範囲に興味関心を示し、視野を広げながら自身の適性の幅を広げる。</li> <li>・予測不能な時代における自己の生き方・在り方を考え、適切に将来の進路を選択・決定する力を養う</li> </ul>

《 校 訓 》
文武一道 夢実現

教育理念
相生学院高等学校は、身体教育と情操教育と技能・知識教育との調和が、全ての教育の根幹と考える。ひとりひとりが、健康な身体と健全な価値観を備え、自ら学び、志を得、行動し、豊かな社会の実現に貢献できるようになったとき、われわれのまちや国は理想の社会となるのである。相生学院高等学校では、このような社会の実現に寄与すべく、一意専心の心構えで教育に当たる。

教育目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>一、自ら学び、生きる原動力に変えることの出来る人材を育成する。</li> <li>一、自ら考え行動し、己を源とすることのできる人材を育成する。</li> <li>一、 独立自尊の気概を持ち、自他を愛することの出来る人材を育成する。</li> <li>一、 国際感覚が豊かで、世界平和に貢献できる人材を育成する。</li> </ul>

総合的な探究の時間の目標
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>

総合的な探究の時間を通して育てようとする資質や能力及び態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の適性や能力、自己と社会との関わりについて課題を研究することができる。</li> <li>・自ら学ぶ姿勢をもち、体験活動やキャリア教育を通じて勤労観、職業観を身につける。</li> <li>・自分の役割や集団で果たすべく自己の役割を理解し協力の姿勢を身につける。</li> </ul>

生徒の実態
通信制の特性を生かし、部活動や自分の特技に時間を割いてスキルの向上を目指し日々努力している生徒の姿が多い。一方では、不登校や人間関係でのトラブルなどの心の悩みを抱えて他校からの転編入してくる生徒も多い。しかし、入学後はその挫折をバネに、自分の進路の目標を明確にし前向きに取り組む姿も多く見られる。

保護者や教師の願い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の卒業資格の取得だけが目的ではなく、その後の人生設計の中で、自分の欲する進路の実現をかなえさせたい。</li> <li>・精神的なサポートを含め、個を尊重する中で人間的な成長を見守りたい。</li> <li>・他者とのかかわりを尊重し、社会に貢献できる人材として成長してほしい。</li> </ul>

年次	名称	目標	学習内容	指導方法・指導体制	評価の観点・基準・方法	添削指導(レポート)	面接指導(単位時間)	実施時期
1年次 ～ 3年次	私たちが情報社会Ⅰ	将来の就職に備えてIT知識の習得は必要不可欠である。国家試験「ITパスポート」の合格を目指すことで、将来の職業人として必要なITに関する基礎知識を習得させ、優秀な人材を育成する。	国家資格「ITパスポート試験」で問われる知識エリア全般を中心に、情報分野の基礎的な理論（基変換、デジタル化など）や一般法令とその考え方、コンピュータとその初歩的技術要素を学ぶ。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	6回	2時間	複数回実施
	私たちが情報社会Ⅱ	ICT・IoTやAIを主体的に活用していくこれからの情報社会について考え、それに伴う情報モラルや最新トピックを、昨今の社会の変化に合わせて幅広く学ぶことを通して情報社会に主体的に参画する態度を養う。	「私たちが情報社会Ⅰ」での学習を基礎とし、新たに組織や会計、経営やマーケティングなどの知識エリアにも触れ、そもそも社会とはどのようなものか、を社会(組織)側の視点を通じて考える。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	6回	2時間	複数回実施
	私たちが伝統・文化Ⅰ	伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を身に付け、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける。	陶芸の工程や歴史について学んだ上でお皿やカップ等一人1作品制作する。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	6月～1月
	私たちが伝統・文化Ⅱ	郷土や国で育まれてきた優れた伝統と文化などのよさについてさらに理解を深め、それらを育んできた我が国や郷土を愛するとともに、国際的な視野に立って、他国の生活習慣や文化を尊重する態度を養う。	絵付けの工程や歴史について学習した後、白磁のお皿またはカップに自由に絵付けをする。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	6月～1月
	文化交流と国際理解Ⅰ	国際的規模の相互依存関係の進展する国際社会において、国際的視野に立って、他国の生活習慣や文化を尊重する態度を養い、国際社会の中で独自性を持ちながら差別のない国際社会の平和と発展、地球環境の保全に貢献できる態度を身に付ける。	人権や環境問題など世界にある問題について学び、国際社会に生きる一員としての自分の在り方を考える。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	9月・11月
	文化交流と国際理解Ⅱ	世界文化遺産についての映像視聴や講義を通して、海外の文化や自然について幅広く学ぶことで、異文化に対する理解と態度を身につけ、国際理解の精神と平和を大切にすることを養う。	世界遺産のなかで「水」について学び、国際社会に生きる一員としての自分の在り方を考得る。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	9月・11月
	私たちがこれからの社会	各種職業の見学や講演会、大学訪問や進路研究などを通して、将来の目標を生徒が自ら探していくことで、進路への関心を喚起するとともに、生徒のモチベーションを高め、これからの社会の展望を通して、自分の目標設定を行うことができる能力を養う。	エゴグラムを用いた学習により、自分に気づき、より良く生きるためにどうすればいいかを考える。	科目横断的・総合的な問題についての学習を、地域の方々や専門家、卒業生と協力して指導する。	レポートを含めた提出物および行動観察により、指導者の判断にて評価する。	2回	2時間	9月・11月

各教科
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力をつける</li> <li>・学力の向上を図る</li> <li>・学ぶ意欲を向上させる</li> <li>・資格および検定の取得を目指して学習する</li> <li>・課題設定能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力をつける</li> <li>・「公民」及び「特別活動」を、人間としての在り方生き方に関する教育を通して行う道徳教育の中核的な指導の場面として関連付ける。</li> </ul>

特別活動			
学業と進路	ホームルーム活動	儀式的行事	文化的行事
相生学院のガイダンス機能を高め、全教職員で生徒個々の進路実現の支援にあたる。 ・情報提供の機会と進路相談の充実を図る。 ・生徒指導の視点を含め、保護者を巻き込んだ三者懇談を実施する。 ・特別活動・総合的な探究の時間との連携を図る。 ・ハローワーク、e-WORK等、関係機関との効果的な連携を図る。 スクーリングを通じ、望ましい集団活動と健全な生活習慣を確立する。また、集団の一員としての自覚と、規律ある生活態度を育てる。	自立から独立と生き抜く力の醸成を目指す。自己の生き方についての考えを深め、自己に活かす能力を養う。	帰属意識を高め集団の一員としての自覚を促す。互いに協力し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてのよりよい人間関係の育成を図る。	芸術に身近に接し、文化的にも豊かな心を育む。伝統文化の継承に向けた自主的な取組を通じて、地域の一員として活動しようとする意欲を養い、郷土を愛する態度や心を養う。
	健康安全体育的行事	校外学習	勤労生産奉仕活動
	健康に関わる学習・体験を通して、生徒同士や地域の方とよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。	進んで人と交わり、その中で自己の役割を認め、理解し信頼しあえる人間関係を形成し、自主的・実践的な態度を育てる。	風光明媚な相生学院高の整美活動に関わることを通して、勤労・奉仕の心を養い、母校を誇りに思ふ気持ちを醸成する。自然・働きかけの人間の技と文化を体感的に学ぶ。

地域や家庭等の連携
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価の公開を行い、本校教育活動の理解を促す。</li> <li>・地域行事を大切にし、伝統ある行事に関心を持たせ、積極的に参加する態度を養う。</li> <li>・道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりすることを通して家庭や地域社会の共通理解を深める。</li> </ul>